

**令和4年度ナッジ手法を用いた
農林水産統計調査オンライン化推
進に係る調査委託事業**

分析・考察結果報告書

令和5年2月

「令和4年度ナッジ手法を用いた農林水産統計調査オンライン化 推進に係る調査委託事業」 分析・考察結果報告書

目 次

内容

1	概要	2
1.1	本業務の概要	2
1.1.1	事業の目的	2
1.2	設計	3
1.2.1	対象統計調査及び規模	3
1.2.2	実施手順	3
1.2.3	実施体制	4
1.3	ヒアリングの実施	5
1.3.1	ヒアリングの基本的な要件	5
1.3.2	ヒアリング項目の作成	6
1.3.3	ヒアリング実施のその他準備	7
1.3.4	ヒアリングの実施結果	7
1.3.5	現状課題分析（対象者行動の特性整理）	8
1.4	資材の作成	11
1.4.1	資材作成の視点	11
1.4.2	【果樹調査】調査資材	13
1.4.3	【農業構造動態調査】調査資材	21
2	調査結果の分析・考察	29
2.1	実査（発送パターン）の設計	29
2.1.1	果樹調査	29
2.1.2	農業構造動態調査	32
2.2	分析概要（果樹調査のみ）	35
2.2.1	分析対象データ	35
2.2.2	分析手法	35
2.3	果樹調査 調査結果の分析・考察	36
2.3.1	集計比較	36
2.3.2	検定	47
2.3.3	考察	50
2.3.4	その他	52
2.4	農業構造動態調査 分析申し送り事項	54
3	オンライン回答推進のための考察	57
3.1	運営方法の検討	57
3.1.1	オンライン回答の先行配布	57
3.1.2	前回値の確認方法の検討	57
3.2	記載する文言の工夫	58
3.2.1	回答可能より“お願い”表記	58
3.2.2	対象者側のメリットの記載	58
3.3	資材の検討	59
3.3.1	調査票発送用封筒への工夫	59
3.3.2	調査票への工夫	59

1 概要

1.1 本業務の概要

1.1.1 事業の目的

農林水産統計調査におけるオンライン回答率は、基幹統計調査（7調査）において、「牛乳乳製品統計調査」以外の6調査で非常に低い状況である。

政府統計については、国土交通省の「建設工事受注動態調査」における不適切事案の要因の一つに調査票入力作業の膨大な労力発生による業務過多が挙げられており、その再発防止策に労力軽減の一助としてオンライン回答の推進が求められているところ。

農林水産省においては、今後、地方統計職員の減少が想定される中、公的統計の品質の確保に繋げていく観点からも、オンライン回答率の向上に資するための調査を実施した。

1.2 設計

1.2.1 対象統計調査及び規模

本事業における対象の統計調査及び規模等については以下のとおり。

1.2.1.1 令和4年度作物統計調査のうち果樹調査（関係団体調査）

対象品目：日本なし・ぶどう

調査対象数：451 客体（日本なし 188 客体・ぶどう 263 客体）

主な調査客体：集出荷団体（農業協同組合等）、集出荷業者、産地集荷市場等

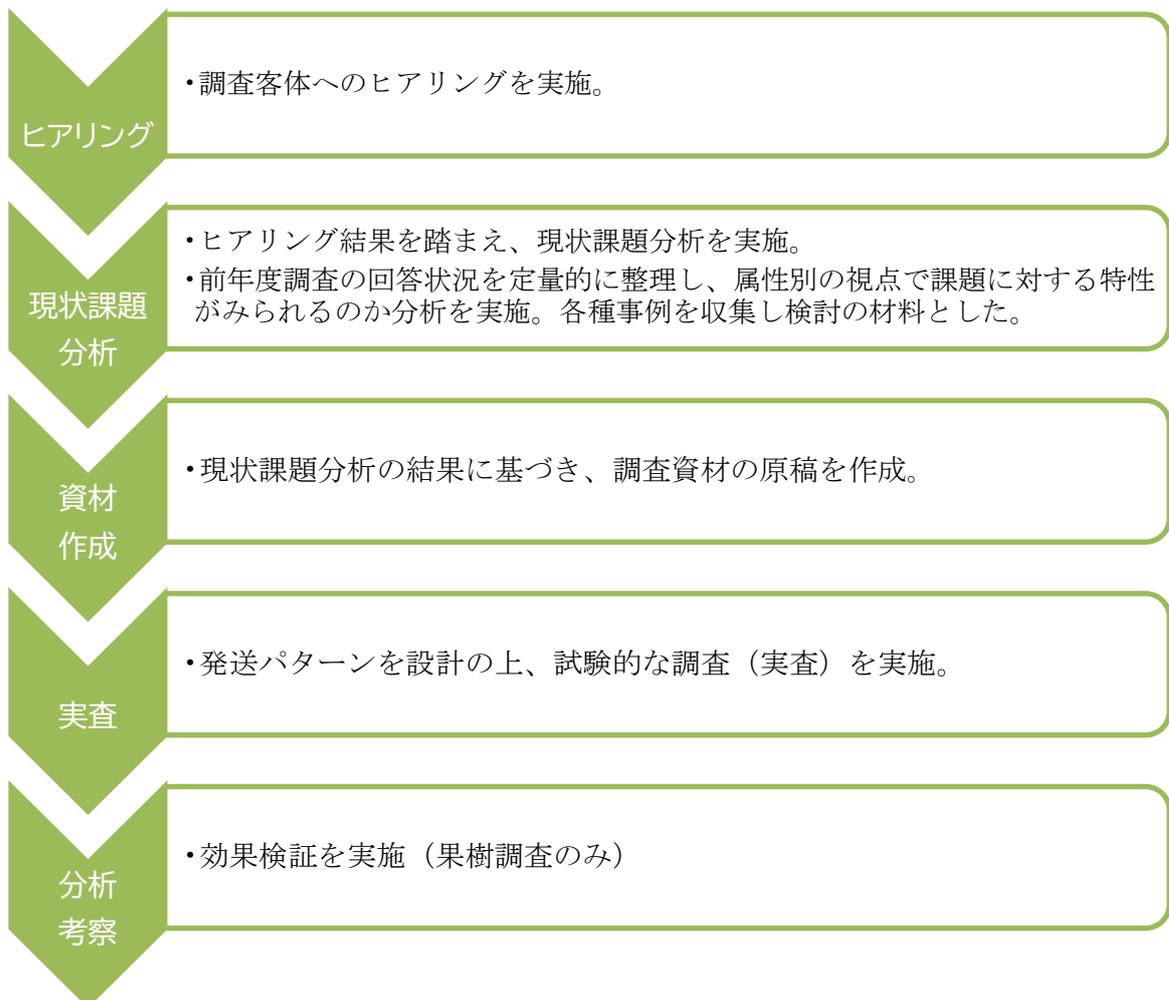
1.2.1.2 令和4年度農業構造動態調査（個人経営体調査）

調査対象数：28,708 客体

主な調査客体：世帯で事業を行う経営体（1戸1法人を含まない）

1.2.2 実施手順

本業務では、次の内容を実施することにより、対象統計調査におけるオンライン回答方式の課題を把握した上でナッジ手法の活用により改善策（調査用品のデザイン、調査票の配布方法等）を検討し、試験的な調査により効果検証を行った。



1.2.3 実施体制

本業務における実施体制はおおむね次のとおり。各作業工程において、農林水産省本省担当職員（以下、「本省担当職員」という。）と株式会社サーベイリサーチセンター担当者が両者協議の上、進めた。

NO.	実施内容	農林水産省	㈱サーベイリサーチセンター
1	ヒアリング項目の作成	○	○
2	ヒアリング対象の設定・アポイント取得	○	-
3	ヒアリング事前アンケートの作成	-	○
4	事前アンケートの配布・回収	○	-
5	ヒアリング実施	○	○
6	ヒアリング実施結果とりまとめ	-	○
7	現状課題分析	-	○
8	調査資材原稿作成	-	○
9	調査資材の印刷・配布及び回収	○	-
10	調査結果の分析・考察	-	○

1.3 ヒアリングの実施

1.3.1 ヒアリングの基本的な要件

統計調査資材の作成にあたり、下記に示す調査対象等に対し、現行の対象統計調査における回答方式等に係るヒアリングを行った。

なお、具体的なヒアリング対象対象体については、本省担当職員及び本省調査担当課職員にて事前に選定を行った。

<果樹調査>

- ヒアリング対象地域：埼玉県、長野県の2地域
- ヒアリング対象：集出荷団体（農業協同組合）職員
- ヒアリング対象対象体数：9対象体。対象対象体の内訳は次のとおり。
- ヒアリング実施時期：令和4年9月26日（月）～同年9月28日（水）

地域	人数	令和3年度調査時 回答方法	
		1.オンライン	2.郵送
埼玉県	5	0	5
長野県	4	3	1
合計	9	3	6

<農業構造動態調査>

- ヒアリング対象地域：岡山県の1地域
- ヒアリング対象：個人経営体、統計調査員
- ヒアリング対象人数：5人。対象の内訳は次のとおり。
- ヒアリング実施時期：令和4年10月6日（木）～同年10月7日（金）

対象	人数	令和3年度調査時 回答方法	
		1.オンライン	2.郵送
農業経営体	3	1	2
統計調査員	2	—	—
合計	5	1	2

1.3.2 ヒアリング項目の作成

ヒアリング項目の作成については、本省担当職員と協議の上、作成をすすめた。ヒアリング項目には、以下の内容を含めることとし、その他オンライン回答率が低位に留まる原因の特定や回答率向上につながるアイデアが収集できる項目を検討した。

- ① オンライン方式ではなく、既存の郵送方式で回答を行う理由
- ② 郵送方式ではなく、オンライン方式で回答を行う理由

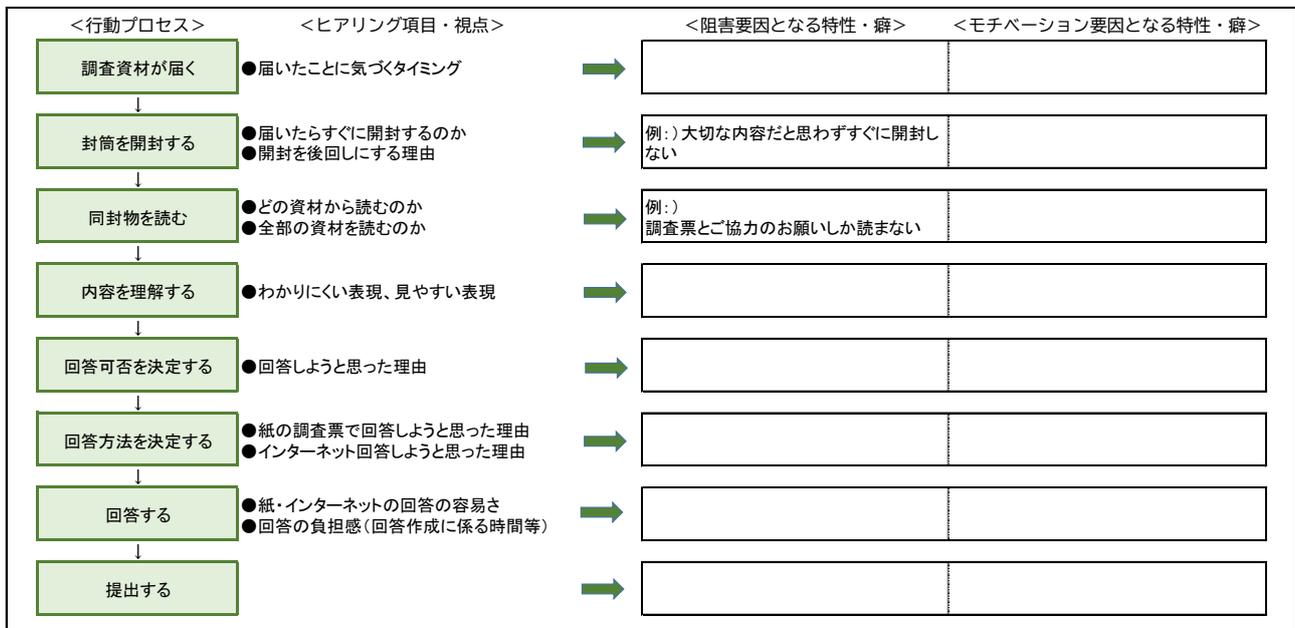
上記仕様にに基づき、ヒアリング項目の作成にあたった。

なお、本業務はナッジ手法を用いるため、調査対象者の行動特性を把握する必要がある。

このため、ヒアリング実施の狙いとして、本業務はナッジ手法の活用を目的することから、調査対象者の行動特性や癖をつかむために、調査票が届いてから回答するまでの一つひとつの対象者の行動を細かく洗い出すことを主軸に考え作成した。具体的な作業は次のとおり。

- 行動プロセスマップ（調査資料を受け取ってから実際に回答するまでの一つひとつの行動を整理した図表）を作成することでヒアリング項目案を作成した。
- 具体的には、「調査資料が届く」「調査資料が入った封筒を開封する」「同封物を読む」「内容を理解する」「回答方法を決める」「回答する」といった細かい行動の背景にどのような判断をして、その行動を選択したのかをヒアリングできるよう準備した。決定したヒアリング項目は別紙1-1、1-2のとおり。行動プロセスに沿って定量的な質問をし、回答内容によってその理由を更問する方法で作成した。

<行動プロセスマップとヒアリング項目イメージ>



1.3.3 ヒアリング実施のその他準備

行動特性を把握することを狙いとしており、令和3年度の調査時に使用した調査資材をヒアリング対象者本人に見てもらうことが望ましいことから、当日には調査資材の実物・オンライン回答画面イメージを見てもらうようにした。

また、果樹調査においては、定量把握項目が多いことから事前アンケートを送付し、回答結果の更
間をヒアリングすることとした。

1.3.4 ヒアリングの実施結果

ヒアリング実施結果（果樹調査においては事前アンケート結果含む）は、別紙2-1～2-3
のとおり。

1.3.5 現状課題分析（対象者行動の特性整理）

ヒアリング結果より、調査対象者の特性を行動プロセスごとに整理・分析をした。

1.3.5.1 果樹調査

果樹調査の結果は下表のとおり。

分類	行動プロセス	類似・共通	差異	ターゲット行動	具体的な内容
認知	1.調査資料が届く	①封筒を見ただけで当該調査と認識できる場合は「間を開ける」。封筒で認識しない場合(同封物で認識しようとする意識がある場合)は「すぐを開ける」		△	封筒は取り扱わない
認知	2.封筒を開封する	②紙・オンライン問わず、調査項目(記入者の決定、回答作成に係る負担感の確認)と期限を確認する			
興味	3.同封物を読む	①慣れから、次の内容を確認する目的で資料一部のみ目を通す ・果樹調査と認識するため ・締め切りを確認するため ・対象品目はなにか確認するため ②はじめて対応する調査の場合は、依頼状を全体的に見る可能性(事前アンケート問1・2で「知らない」と回答した客体)	・ネット回答希望者が最初に見るもの→調査票(理由:調査内容・対象品目を確認) ・紙回答希望者が最初に見るもの→依頼状(理由:締め切りの確認)	○	依頼状にインターネット回答について強調
判断	4.回答可否を決定する	①紙・オンラインを選択する意思決定のタイミングは、調査資料が届いて、統計調査と認識した時点。 ②しかし、回答手法を調査毎に「選ぶ」という発想は、ない。 ③紙回答を選択する主な背景は苦手意識。 ④オンラインでやってください、と言われればやる、とご意見。			
行動	5.回答する	①インターネットチラシをはじめ、その他の書類は、この回答する段階で見る ②PC操作の苦手意識は、ログイン操作<回答入力操作。 ③期限を意識して回答する。		○	チラシで後押し

1つ目のポイントとして、上表【3. 同封物を読む】行動プロセスにて特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「封筒を開けて、まず文章を読んだ資料はどれか」と尋ねている。結果は、「依頼状」と「調査票」の2つに分かれた。しかし、この2つの資料をそれぞれ選択した理由は、共通して<何の調査か><回答期限><対象品目>の情報を知るという目的であった。

特に<回答期限>については、他の行動にも関連しており、ヒアリング結果から「調査資料が手元に届いてもすぐには回答せず後回しにする」理由として、期限をまず確認していることが要因であることがうかがえた。

さらに、まず文章を読んだ資料として「依頼状」を選んだ対象者は全部で6客体だが、全て令和3年度調査時に郵送(紙)で回答している客体であり、「調査票」を選んだ対象者は全部で3客体だが、こちらは全て令和3年度調査時にオンラインで回答している客体であった。

ただし、「依頼状」「調査票」に記載されている情報を、全て目を通すのではなく、対象者自身がピンポイントで知りたい情報だけを確認することも共通意見として挙げた。この背景には、果樹調査の対象特性である「毎年調査へ回答していることによる慣れ(調査として悉皆調査かつ、調査対象品目ごとの年次調査であること)」が関係していると考えられる。

他方、この行動プロセスのタイミングで、オンライン回答に関する調査資料である「インターネットチラシ」を見るという意見は、挙げなかった。

2つ目のポイントとして、上表【4. 回答可否を決定する】行動プロセスにおいても特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「この統計調査を回答する時、紙(調査票)とインターネット(オンライン)のどちらで回答するのか」と尋ねている。結果は、「紙」6客体、「インターネット」3客体となり、令和3年度調査時に利用した回答方法から意見を変えた客体はいなかった。

更問として、それぞれを選択した理由を尋ねたところ、回答方法（紙・インターネット）を選択する意思決定のタイミングは、当該調査の依頼を受けたと認識した時点ではあるものの、回答方法を調査毎に＜選ぶ＞という発想はないという対象者の特性がうかがえた。

3つ目のポイントとして、上表【5. 回答する】行動プロセスにて、特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「パソコン・タブレット・スマートフォンの日常の利用頻度」について尋ねている。その中で、パソコン等操作の苦手意識について、具体的なシーンを尋ねたところ、ログイン操作より、その次段階となる回答内容入力操作に対して苦手意識があることがうかがえた。

最後のポイントとして、オンライン回答推進に向けたご意見を対象者に尋ねたところ、様々な事情はあるものの「オンラインでやってくださいと言われればやります」という意見が挙がった。

これらの整理結果から、ナッジ介入の設計として対象者が意思決定をするタイミングで目を通す「依頼状」をメインに調査資材を作成することとした。また、オンライン回答に関する調査資材である「インターネットチラシ」については、ヒアリングで意見があった苦手意識の課題（回答入力操作）があるものの、回答方法を選択する意思決定のタイミングでは当該資材は大きな要因にはならないと判断し、オンライン回答時の途中離脱に対するフォローの位置づけとして調査資材を作成することとした。

1.3.5.2 農業構造動態調査

農業構造動態調査の結果は下表のとおり。

分類	行動プロセス	類似・共通	差異	ターゲット行動	具体的な内容
認知	1.調査資材が届く	・調査員によるインターネット回答案内は、客体への印象(高齢かどうか、という視点)で調査員判断によって説明が省略される。			
認知	2.封筒を開封する	・調査客体は、受け取った資材は、上から順に通りは見る。 ・資料は斜め読みに近い。		○	・封入順の工夫 ・依頼状への記載内容
興味	3.同封物を読む				
判断	4.回答可否を決定する				
行動	5.回答する	・横文字苦手 ・パソコンをそもそも持っていない(慣れていない)		○	・依頼状への記載内容 ・オンラインチラシの記載内容

1つ目のポイントとして、上表【1. 調査資材が届く】行動プロセスにて、特徴が見られた。当該調査は調査員による訪問留置調査であることから、統計調査員が調査対象者宅へ訪問し、協力依頼を行っている。ヒアリングでは、「調査依頼時、インターネット回答の案内を調査対象者に対して積極的に行うか」を統計調査員に尋ねた。意見としては、調査そのものの協力を得る必要があるという背景もあり、調査相手（高齢かどうか、という視点）を見て、統計調査員が現場で柔軟に判断した上で説明・資材配布をするか否かを決定するとあった。このことから、そもそもオンライン関連の調査資材を手にする調査対象者が限られてしまう可能性が考えられる。

2つ目のポイントとして、上表【2. 封筒を開封する】【3. 同封物を読む】行動プロセスでは、果樹調査同様「封筒を開けて、まず文章を読んだ資材はどれか」と尋ねたものの、調査対象者は、何かを意識して書類の中身を確認しようという考えはもたず、自身の大事そうだなと思う視点で、「受け取った資材は上から順に通りは見る」ことがうかがえた。ただし、資料そのものは斜め読みに近いこともうかがえた。

3つ目のポイントとして、上表【5. 回答する】行動プロセスにて、特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「パソコン・タブレット・スマートフォンの日常の利用頻度」について尋ねている。令和3年度調査時に紙回答をした調査対象者の意見として、パソコンを所有していない・パソコンは所有しているが自身は使わない（家族が使用）ということをやうかがった。一方、スマートフォンは利用しているものの、利用用途はメール・電話・ネット検索がメインであることから、サイトへの登録等色々入力しなくてはならないものは避けるとの意見があった。その背景には、まず第1段階として、操作手順のチラシ等を見ても記載されている用語がわからない（横文字）こと、第2段階として、チラシを見ながら自身で入力しようにも、入力（キータッチ）の操作がわからない（自分でチラシ通りの操作が再現できない）という理由が考えられる。

これらの整理結果から、ナッジ介入の設計として調査対象者の行動特性である「受け取った資材は上から順に通りは見る」という視点に加え、統計調査員訪問時の説明・配布判断が入る可能性を踏まえ、全ての対象者が手に取る「依頼状」をメインに調査資材を作成することとした。

また、オンライン回答に関する調査資材である「インターネットチラシ」については、ヒアリングで意見があった課題（チラシの用語がわからない、キータッチがわからない）があるものの、回答方法を選択する意思決定のタイミングでは当該資材は大きな要因にはならないと判断し、オンライン回答時の途中離脱に対するフォローの位置づけとして作成することとした。

1.4 資料の作成

1.4.1 資料作成の視点

オンライン回答推進に向けた調査資料を対象統計調査毎に異なるナッジ要素を盛り込んだ複数パターン作成をし、本省担当職員と協議の上確定させた。なお、対象統計調査の調査項目、調査票及びオンライン回答方法の変更については本事業の対象外とした。

加えて、農業構造動態調査については、回答方式問わず、調査回答率の向上に資する視点も踏まえて作成した。作成にあたっては、実施したヒアリング結果に加え、過去の公的統計調査の実務経験や、ナッジ手法活用の事例収集により、各種資料の視点を整理した。また、ナッジのフレームワーク「EAST」¹⁾に沿って評価できるようにした。

E	Easy (簡単) 人は簡単で楽な行動をとりやすい。 一目で分かる。選択肢を少なくしてハードルを下げる。
A	Attractive(魅力的・印象的) 人は、魅力的なものを選びやすい。 相手の注意を引きつけるような仕掛けをする。
S	Social(社会的) 人は、社会規範に影響を受ける。 他の人が取っている行動を伝え、人を動かす。
T	Timely(タイムリー) 人は、タイムリーなアプローチに反応しやすい。 適切なタイミングで情報を提供する。

1.4.1.1 果樹調査

メインの調査資料にあたる「依頼状」については、調査客体が「依頼状」の中から<回答期限>情報を採る特性を踏まえ、当該記載箇所を中心にオンライン回答について強調するような（目にとまるような）デザインを基本として作成した。

NO	作成資料	パターン	コンセプト	目的・視点
1	依頼状	ナッジ版①	オンライン回答を推奨したデザイン	オンライン回答を推奨(基本(当たり前))であるよう意図したデザイン。
2		ナッジ版②	オンライン回答に変更・切り替えのお願いとしたデザイン	毎年回答している調査という慣れの排除を目的に、切替・変更等の強い文言をいれたデザイン。
3	オンライン回答ガイド		ログインから回答送信まで一連の流れをフォロー	オンライン回答のログイン後から回答送信の一連の流れを掲載。回答途中で離脱抑制を狙う。
4	督促はがき		オンライン回答へ切り替え・変更のお願い	重要なお知らせとして未回答に対する督促と並列して、毎年回答している調査という慣れの排除を目的に、切替・変更等の強い文言をいれたデザイン。

¹⁾ (The Behavioural Insights Team(BIT), 2012, <https://www.bi.team/>)

1.4.1.2 農業構造動態調査

果樹調査同様資材の目につく場所にオンライン回答を強調するようなデザインを基本として作成。加えて、農業経営体という対象特性から、過去の公的統計調査の実務経験等を踏まえて、「初心者 OK」をひと目でわかるようなデザインとした。

NO	作成資材	パターン	コンセプト	目的・視点
1	依頼状	ナッジ版①	オンライン回答を推奨したデザイン	オンライン回答を推奨(基本(当たり前))であるよう意図したデザイン。
2		ナッジ版②	オンライン回答に変更・切り替えのお願いとしたデザイン	変化をきらう人間の行動特性に対して、一瞬でわかるような強い文言をいれたデザイン。
3		ナッジ版③	オンライン回答へチャレンジ	オンライン回答による障壁などを排除したデザイン。
3	オンライン回答ガイド		ログインから回答送信まで一連の流れをフォロー	パソコン・スマートフォン初心者でも、オンライン回答を試みようと思わせるデザインとログインから回答完了までの一連の手順で実際に回答完了にたどり着けるようなデザイン。

1.4.2 【果樹調査】調査資料

果樹調査における依頼状3種の記載内容比較は「2.3.3 考察」を参照。

1.4.2.1 依頼状

(1) 従来版依頼状

様式第1号

作物統計調査への御協力をお願い（団体用）

《調査の目的》
農林水産省は、国民の方々へ生命の源である食料を安定的に供給する重要な使命を担っております。その使命を果たしていくためには、基本的な情報であります耕地面積や農作物の作付面積、収穫量等を正確に把握することが必要となります。今回お願いしております「作物統計調査」は、国内の主要な農作物の作付面積、収穫量等を把握するもので、統計法に基づいて行うものです。

《調査をお願いした経緯》
この調査は、同封した調査票に記載してある農作物（品目）について、これまでに栽培及び取扱い実績のある団体等を対象に実施することとしており、この度、貴団体に調査をお願いすることとなりました。

《調査結果の守秘義務》
御回答いただいた内容は、統計法の規定により適正に管理され、秘密の保護には万全を期しておりますので、貴団体管内の農作物の生産状況について、是非ありのままを御回答くださるようお願いいたします。

《調査票の返送について》
○ 調査票を返送する前に、記入漏れや記入誤りがないか、再度御確認をお願いいたします。
オンライン調査に御協力いただける場合は、「オンライン調査システム操作ガイド」をよくお読みいただいた上で、回答をお願いいたします。
○ 記入いただいた調査票は、月 日までに
同封されている封筒に入れて返送又はオンラインで送信して下さるようお願いいたします。
○ 御多用のところ誠に恐縮ですが、本調査への御協力をよろしくお願いいたします。

お問合せ先

農林水産省

ヒアリング結果から

「オンラインでやってくださいと言われればやります」という意見が挙がっていたが、回答方法をオンラインで依頼している表現ではない。

過去の統計調査の実務経験から

- ①調査対象者は、資料の全文を読まない可能性から、色使いや文字のフォント・ポイントの変化など、強調が必要。
- ②調査対象者にとって、オンライン回答にメリット（魅力）を感じられる表現の必要性。
- ③文字だけではなく、イラスト等「目に留まる」デザインの必要性。

1.4 資料の作成

1.4.2 【果樹調査】調査資料

(2) ナッジ版①依頼状

作物統計調査へのご協力をお願い

日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。
農林水産省では、国内の主要な農作物の作付（栽培）面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、農林水産行政の基礎資料を整備することを目的に「作物統計調査」を実施しており、調査結果は、国民生活の基礎である食料の安定供給の確保のための施策推進等に利用しております。

この調査は、同封した調査票に記載してある農作物（品目）について、これまでに栽培及び取扱い実績のある団体等を対象に実施しており、この度、貴団体に調査をお願いすることとなりました。

ご回答いただいた内容は、統計法の規定により適正に管理され、秘密の保護には万全を期しておりますので、貴団体内の農作物の生産状況について、是非ありのままをご回答ください。

なお、調査へのご回答に際しては、「公的統計の整備に関する基本的な計画」に基づき、オンラインによるご回答を推奨しています。

お忙しいことと思いますが、以下の手順にて回答期限までにご提出をお願いいたします。

回答手順

オンライン回答の手順（詳しくは同封のオンライン回答ガイドをご参照ください）

- 1 調査票に記載の品目・品種を確認する。
- 2 オンライン調査システムにログインする。
- 3 回答画面に沿って入力し、送信する。**（参考に前回の値も確認できます）**

回答期限 ○月○日

紙回答の手順

オンラインでの回答が困難な場合は、以下をご確認のうえ、同封の紙の調査票にてご回答ください。
提出する際は、「調査票」を「提出用封筒」に封入のうえ、郵便ポストに投函してください。
不明な点がある場合は、お電話にて確認させていただく場合がございますのでご了承ください。

お問い合わせ先

施策に基づいて、オンライン回答を推奨している旨アピール。

Attractive(魅力的・印象的)・デフォルト

ヒアリングで、開封後真っ先に確認すると意見があった「回答期限」の近くにオンライン回答手順を記載することで、依頼状の文章全体を読まない人でもオンライン回答の手順が目に入るように記載。

前回値が確認できることをアピールし、前回値を確認して回答したいという対象者に訴求する。

ヒアリング結果から、「回答期限」の近くにオンライン回答手順を記載することで、依頼状の文章全体を読まない人でもオンライン回答の手順が目に入るように掲載位置を変更。

回答手順として、紙回答よりもオンライン回答を先に掲載することで、基本的にオンライン回答、例外的に紙回答と感ずるよう記載。

(3) ナッジ版②依頼状

作物統計調査へのご協力をお願い

1 調査の依頼について
日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。
農林水産省では、国内の主要な農作物の作付（栽培）面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、農林水産行政の基礎資料を整備することを目的に「作物統計調査」を実施しており、調査結果は、国民生活の基礎である食料の安定供給の確保のための施策推進等に利用しております。
本調査は、同封した調査票に記述してある農作物（品目）について、これまでに栽培及び取扱い実績のある団体等を対象に実施しており、この度、貴団体に調査をお願いすることとなりました。
ご回答いただいた内容は、統計法の規定により適正に管理され、秘密の保護には万全を期しておりますので、貴団体管内の農作物の生産状況について、是非ありのままをご回答ください。お忙しいことと思いますが、回答期限までにご提出をお願いいたします。

2 【重要】回答方法変更のお願い
農林水産省では、統計調査へのご回答に際して、「公的統計の整備に関する基本的な許諾」に基づき、オンラインによるご回答を推奨しています。統計調査をオンラインにて回答いただくことでシステムチェック機能により、記入漏れや数値の整合性が送信前に予め確認・修正ができ、回答精度の向上にも繋がります。
調査対象者皆様の統計調査への回答負担を軽減し回答精度を向上させ、よりよい調査へと導くため、ぜひオンライン回答にご協力をお願いいたします。

① 回答手順
オンライン回答の手順（詳しくは同封のオンライン回答ガイドをご参照ください）
② オンライン回答をお願いします
③ ④
① 調査票に記載の品目・品種を確認する。
② オンライン調査システムにログインする。
③ 回答画面に沿って入力し、送信する。（参考に前回の値も確認できます）
④ 回答期限 ○月○日
紙回答の手順
オンラインでの回答が困難な場合は、以下をご確認のうえ、同封の紙の調査票にてご回答ください。
・提出する際は、「調査票」を「提出用封筒」に封入のうえ、郵便ポストに投函してください。
・不明な点がある場合は、お電話にて確認させていただく場合がございますのでご了承ください。
お問い合わせ

Attractive(魅力的・印象的)

重要と赤字で記載し、回答方法変更のお願いを記載。

オンライン回答推奨文。

オンライン回答することによる、対象者側のメリットを記載。

① 【Attractive(魅力的・印象的)・デフォルト】

回答手順として、紙回答よりもオンライン回答を先に掲載することで、基本的にオンライン回答、例外的に紙回答と感ずるよう記載。

② 【Attractive(魅力的・印象的)】

オンライン回答を促進するようなアイキャッチを記載。

③ 前回値が確認できる旨をアピールし、前回値を確認して回答したいという対象者に訴求する。

④ ヒアリング結果から、「回答期限」の近くにオンライン回答手順を記載することで、依頼状の文章全体を読まない人でもオンライン回答の手順が目に入るよう記載。

1.4.2.2 オンライン回答ログイン情報

(1) 従来版オンライン回答ログイン情報

〇〇〇調査

回答はXX月XX日までにお願います
※インターネットで回答されなかった場合は、後日調査員が伺います

インターネットで回答ができます

いつでも

期間中、お好きな時間に回答できます。
入力中のデータは途中で保存ができ、後に作業を再開することも可能です。

どこでも

調査員が調査票の回収に伺いません。
紙の調査票を提出する必要はありません。パソコンの画面で調査回答が完了します。

安心

回答データは厳重に守られています。
回答の送信は暗号化されています。また、不正なアクセスなどの監視を24時間行っています。

オンライン(インターネット)回答のログイン情報

オンライン調査システムで利用する貴事業所の利用者情報は、次のとおりです。詳しくは裏面の「操作ガイド-政府統計オンラインへのログイン-」をご覧ください。
※この利用者情報は、〇〇調査のみにご使用ください。また、第三者に渡らないようお取り扱いにご注意ください。

政府統計コード	11111113
調査対象者ID (ID)	22222223
初期パスワード (確認コード)	33333333

【お問い合わせ先】
農林水産省 大臣官房統計部生産流通消費統計課
☎00-0000-0000 ✉abcdefg@maff.go.jp
農林水産省

操作ガイド-政府統計オンラインへのログイン-

※パソコンのご利用環境によっては、利用できない場合があります。

- 1 Webサイトへアクセス**
Webサイト「政府統計オンライン調査総合窓口」(<https://www.e-survey.go.jp>)へアクセスしてください。
e-survey.go.jp もしくは **政府統計オンライン**
- 2 システムへログイン**
次の手順でシステムへログイン、パスワードの変更をしてください。
 - [2-1] 政府統計オンライン調査総合窓口の「ログイン画面へ」のボタンを押します。
 - [2-2] 表面の利用者情報入力を入力し「ログイン」ボタンを押します。

▼を押して、統計調査を選択してください。
農林水産省『作物統計調査』コードは自動入力
この用紙表面に記載のある『調査対象者ID』『初期パスワード』を入力し、「ログイン」ボタンを押してください。
 - [2-3] 新しいパスワードを設定します。
パスワードは調査対象者の確認のために重要です。大切に保管してください。

初期パスワードは仮ですので、初回で変更をお願いいたします。新しいパスワードを入力して「変更」ボタンを押してください。
- 3 データの入力**
画面の案内に従って連絡先の登録、回答データを入力してください。

今までの統計データおよび実施中の調査については農林水産省のWebサイトでも公開しています。
<http://www.maff.go.jp/tokei/>

ヒアリング結果から

①ログイン後の入力操作手順について記載がない。

過去の統計調査の実務経験から

- ①ログインに係る操作方法について、「政府統計コード」は入力ではなく、プルダウン選択式であるものの、記載内容としては入力項目との誤認させる可能性を懸念。
- ②ログインの手順は「裏面」、ログイン情報は「表面」と分かれているため本資料を見ながらのログイン操作に不便さを感じる可能性を懸念。
- ③ログイン情報の文字の見間違い防止のため「ルビ」の必要性。
- ④オンライン回答における各種端末を想定し、QRコードによるスムーズなサイトへのアクセスの必要性。

(2) ナッジ版オンライン回答ログイン情報

従来版のA4サイズからA3サイズに変更し、見開きで操作方法を確認できるデザインとした。

【表・裏面】

回答時間の目安を記載。短時間で回答可能と分かることでオンライン回答のハードルを下げる。

作物統計調査
オンライン回答ガイド

所要時間
5分!

オンライン調査システムへのアクセス

- オンライン調査システムへはこちらからアクセスいただけます。
- 検索サイトで検索 検索
- URL を直接入力 <https://www.e-survey.go.jp>
- QRコードの読み取り (右図)

アクセス後、画面中央上部の「ログイン画面へ」ボタンを押し、以下の画面が表示されたら、政府統計コードのプルダウンから「作物統計調査」を選択し、調査対象者ID・パスワード欄に下記のオンライン回答用ログイン情報を入力してください。

ログイン情報

ログインするためには、あらかじめ配布されたオンライン調査に関する説明資料に記載されている情報が必要です。政府統計コード、調査対象者ID、パスワードはすべて半角で入力してください。

作物統計調査 (プルダウンメニュー) ← 選択

調査対象者ID ← 入力

パスワード ← 入力

あなたのオンライン回答用ログイン情報

調査対象者ID	えー えー ぜっど ぜっど いち に さん し
	AaZz1234
初期パスワード	えふ しー えふ しー さん に ぜろ に
	fcFc3202
新パスワードメモ欄	

※ログイン後自身で設定するパスワードは忘れずに控えてください。

ログイン情報の入力にあたって

- ログイン情報はすべて半角英数字で入力してください。
- 大文字と小文字は区別して入力してください。
- 誤ったログイン情報を5回連続で入力するとロックされますのでご注意ください(一定時間ログインできなくなります)。ロックは15分程度経過すると解除されます。時間を置いてから再度ログイン情報を入力してください。
- ログイン情報は第三者の目に触れないよう、取扱いに十分ご注意ください。

① 【Easy (簡単)】

QRコードをつけることで、調査サイトへのアクセスを容易にする。

② 【Easy (簡単)】

ログイン画面キャプチャとログイン情報を近くに配置し、表面(片面)を見るだけで回答画面までたどりつくような作りとした。

③ プルダウンで「選択」なのか文字を「入力」なのか迷うことがないよう指示の指定を記載。

④ 【エラーの予期】

ログイン後、新パスワードの設定を行うことから「新パスワードメモ欄」を追加。

【中面】

①

1

調査票の画面では、**回答入力画面へ** をクリックして回答を始めます。

一度途中で回答を中断している場合は、**一時保存した回答の取得** をクリックしてください。

3

結果樹面積の主な増減要因について入力し、次に主な増減地域や増減面積について入力してください。

入力を終えたら、**次のページに進む ->** をクリックして、次の質問に続きます。

2

品種品目番号の記載のある欄について、それぞれ結果樹面積、出荷量、うち加工向けの数値を入力してください。

入力を終えたら、**次のページに進む ->** をクリックして、次の質問に続きます。

4

収穫量の増減要因等について当てはまるものをそれぞれ選択してください。被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、入力してください。

入力を終えたら、**回答送信-確認画面へ進む ->** をクリックします。

5

2～4の回答内容の確認画面が表示されます。回答内容を修正したい場合は、**<- 前のページに戻る** をクリックして修正したいページに戻り、修正してください。

修正がなければ、**回答データの送信** をクリックしてください。これで回答は終了です。

① 【Easy (簡単)】

文字だけの説明にならないよう、常に画面と画面のどの位置にあるボタンなのかを記載し一目見ただけでわかるような作りとした。

② 途中で回答を中断し再度ログインした場合、「一時保存した回答の取得」を押すことで前回保存した状態から回答できるなど、回答者に配慮した作りとした。

1.4.2.3 督促はがき

(1) 従来版督促はがき

日頃より、農林水産省が実施しております各種統計調査にご協力いただきまして、厚くお礼申し上げます。

先日、「令和〇年産〇〇〇〇〇調査」の調査票を送付させていただきました。

御多用のところ誠に恐縮ですが、調査票にご記入いただき、〇月〇〇日(〇)までに返送していただければ幸いです。

ご記入いただいた調査内容は、統計を作成するためだけに使用し、調査内容を他人に漏らしたりすることはないことを、念のために申し添えます。

ご不明な点がありましたら、下記の担当者までご連絡ください。

なお、行き違いで、すでに調査票をご返送いただいている場合には、何とぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

●●●農政局〇〇県拠点
〒〇〇〇-〇〇〇〇
〇〇県〇〇市〇〇〇〇 〇〇合同庁舎〇〇
電話：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
FAX：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
担当：統計チーム 〇〇〇〇・〇〇〇〇
○

過去の統計調査の実務経験から

①オンライン回答依頼に関する記載がない。

(2) ナッジ版督促はがき

<div data-bbox="204 257 335 380"></div> <div data-bbox="411 241 726 324"><p>郵便はがき</p><table border="1"><tr><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td></tr></table></div> <div data-bbox="188 705 742 801"><p>「作物統計調査」に関する重要なお知らせ</p></div> <div data-bbox="188 828 694 1041"><p>問合せ先 ●●●農政局○○県拠点</p><p>〒000-0000</p><p>○○県○○市○○○○ ○○合同庁舎○○</p><p>電話：○○○-○○○-○○○○</p><p>FAX：○○○-○○○-○○○○</p><p>担当：統計チーム ○○○○・○○○○</p></div>	□	□	□	□	□	□	□	□	<div data-bbox="813 257 1356 302"><p>回答方法・回答期限に関する重要なお知らせ</p></div> <div data-bbox="813 324 1356 638"><p>平素より各種農林水産統計調査の実施にご協力いただき、ありがとうございます。</p><p>○月○日締切で「作物統計調査（果樹収穫量調査）」の調査票をお送りしましたが、ご回答が確認できなかったため、本状にてお知らせいたしました。</p><p>お忙しい中恐縮ですが、○月○日（○）までに回答の入力・送信をお願いいたします。</p><p>なお、本状と入れ違いで既にご回答いただいている場合は、失礼の段、ご容赦ください。</p></div> <div data-bbox="798 660 1364 873"><p>オンライン回答への切替のお願い</p><p>調査対象者皆様の回答負担を軽減するとともに、回答精度の向上を図るため、できるかぎりオンラインによる回答をお願いしております。</p><p>何卒ご理解のほどお願いいたします。</p></div> <div data-bbox="813 907 1356 1064"><p>※オンラインでの回答が困難な場合は、先にお送りした書類に同封の「調査票」へ記入の上、「返信用封筒」にてポストへ投函をお願いいたします。</p><p>※書類がお手元に届いていない場合やご不明な点がございましたら、はがき表面の連絡先までご連絡ください。</p></div>
□	□	□	□	□	□	□	□		

Attractive(魅力的・印象的)

「オンライン回答切替のお願い」と切替という文言を使うことで、紙回答に慣れてしまった人でもオンラインで回答をしようという気持ちにさせる。

1.4.3 【農業構造動態調査】調査資料

1.4.3.1 依頼状

(1) 従来版依頼状

農業構造動態調査へのご協力をお願い

日頃より、農林水産省が実施しております統計調査に対しまして、格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

農林水産省では、統計法（平成19年法律第53号）に基づく一般統計調査として、農業構造動態調査を実施しております。

この調査は、全国の農業経営体を対象として、農林業センサス実施年以外の農業生産構造及び就業構造の実態を明らかにするもので、得られた調査結果は農政の企画・立案、推進等に必要な資料として活用されております。

つきましては、ご多用中誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解の上、本統計調査へのご協力をお願いいたします。

なお、調査で把握した事柄について、他人に漏らしたり、統計の作成以外の目的で使用することは統計法で固く禁じられており、情報の管理には万全を期しておりますので、ありのままをお答えくださるようお願いいたします。

令和5年2月

農林水産省大臣官房統計部長

山田 英也

農林水産省

1.4 資料の作成

1.4.3 【農業構造動態調査】調査資料

(2) ナッジ版①依頼状

農業構造動態調査へのご協力をお願い

日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。
農林水産省では、統計法（平成19年法律第53号）に基づく一般統計調査として、農業構造動態調査を実施しております。

この調査は、全国の農業経営体を対象として、農林業センサス実施年以外の農業生産構造及び就業構造の実態を明らかにするもので、得られた調査結果は農政の企画・立案、推進等に必要資料として活用されております。

なお、調査へのご回答に際しては、「公的統計の整備に関する基本的な計画」に基づき、オンラインによるご回答を推奨しています。

お忙しいことと思いますが、以下の手順にて回答期限までにご提出をお願いいたします。

オンライン回答の手順

① 接続開始



② ログイン情報確認



③ 回答・送信



※詳しくは別紙「操作ガイド」をご覧ください。

前年の回答を確認しながら入力できます！

オンライン回答が困難な方へ

オンラインでの回答が困難な場合は、以下をご確認のうえ、同封の紙の調査票にてご回答ください。

- ・調査員から調査を依頼された方は、後日調査員が回収に伺いますので「調査票」を調査員にお渡しください。
- ・郵送で調査票を受け取った方は、同封の「返信用封筒」に「調査票」を封入の上、郵便ポストに投函ください。
- ・回答を記入する際は、「記入の仕方」をご覧ください。

守秘義務 本調査で把握した事柄について、他人に漏らしたり、統計の作成以外の目的で使用したりすることは統計法で固く禁じられております。情報の管理には万全を期しておりますので、ありのままをご回答ください。

お問い合わせ先 _____

回答期限
○月○日

農林水産省

オンライン回答推奨文。

Attractive(魅力的・印象的)・デフォルト

オンライン回答をしたことがない方に対して、回答の流れをイメージしてもらうためイラストを用いて説明。オンラインで回答することを前提とした作り。

前年の回答を確認できることをアピールし、オンライン回答の選択へ繋げる。

デフォルト

「紙で回答する方へ」の言い換えとして「オンライン回答が困難な方へ」と表現を変えることでオンライン回答が一般的と思ってもらえる表現とした。

(3) ナッジ版②依頼状

農業構造動態調査へのご協力をお願い

日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。
農林水産省では、統計法（平成19年法律第53号）に基づく一般統計調査として、農業構造動態調査を実施しております。

この調査は、全国の農業経営体を対象として、農林業センサス実施年以外の農業生産構造及び就業構造の実態を明らかにするもので、得られた調査結果は農政の企画・立案、推進等に必要な資料として活用されております。

お忙しいことと思いますが、以下の手順にて回答期限までにご提出をお願いいたします。

【重要】回答方法変更のお願い

農林水産省では、調査の効率化や回答精度向上を目的に、回答方法を紙からオンラインへの変更をお願いしております。

① 接続開始



② ログイン情報確認



③ 回答・送信



前年の回答を確認しながら入力できます！

※詳しくは別紙「操作ガイド」をご覧ください。

オンライン回答が困難な方へ

- ・調査員から調査を依頼された方は、後日調査員が回収に伺いますので「調査票」を調査員にお渡しください。
- ・郵送で調査票を受け取った方は、同封の「返信用封筒」に「調査票」を封入の上、郵便ポストに投函ください。
- ・回答を記入する際は、「記入の仕方」をご覧ください。

【守秘義務】 本調査で把握した事柄について、他人に漏らしたり、統計の作成以外の目的で使用したりすることは統計法で固く禁じられております。情報の管理には万全を期しておりますので、ありのままをご回答ください。

お問い合わせ先 _____

回答期限
〇月〇日

農林水産省

Attractive(魅力的・印象的)・デフォルト

回答方法変更のお願いとして、紙回答からオンライン回答を推進させるような表現とした。

オンライン回答をしたことがない方に対して、回答の流れをイメージしてもらうためイラストを用いて説明。オンラインで回答することを前提とした作り。

前回の回答を確認できることをアピールし、オンライン回答の選択へ繋げる。

デフォルト

「紙で回答する方へ」の言い換えとして「オンライン回答が困難な方へ」と表現を変えることでオンライン回答が一般的と思ってもらえる表現とした。

(4) ナッジ版③依頼状

農業構造動態調査へのご協力をお願い

日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。
農林水産省では、統計法（平成19年法律第53号）に基づく一般統計調査として、農業構造動態調査を実施しております。

この調査は、全国の農業経営体を対象として、農業センサス実施年以外の農業生産構造及び就業構造の実態を明らかにするもので、得られた調査結果は農政の企画・立案、推進等に必要資料として活用されております。

お忙しいことと思いますが、回答期限までに提出をお願いいたします。

オンライン回答してみませんか？

操作ガイド

オンライン回答、してみませんか？

まずは、一緒に入っているこちらの「**操作ガイド**」をご覧ください！

簡単な操作でパソコン初心者でも安心！
この機会にぜひ1度チャレンジしてみませんか。

継続してご協力いただいている方は、前年の回答が確認でき、スムーズに回答できます！

オンラインでの回答が困難な場合は、以下をご確認のうえ、同封の紙の調査票にてご回答ください。

- ・調査員から調査を依頼された方は、後日調査員が回収に伺いますので「調査票」を調査員にお渡しください。
- ・郵送で調査票を受け取った方は、同封の「返信用封筒」に「調査票」を封入の上、郵便ポストに投函ください。
- ・回答を記入する際は、「記入の仕方」をご覧ください。

守秘義務 本調査で把握した事柄について、他人に漏らしたり、統計の作成以外の目的で使用したりすることは統計法で固く禁じられております。情報の管理には万全を期しておりますので、ありのままをご回答ください。

お問い合わせ先 _____

回答期限
○月○日

農林水産省

Attractive(魅力的・印象的)・デフォルト

親近感を持ってもらえるよう、「オンライン回答してみませんか」と訴えかけるような表現とした。

Easy (簡単)

オンライン回答をしてみようと思った場合に、次の行動をどうしたらいいのかがすぐに分かるよう、また操作ガイドとはどの資料のどのようなのが一目で分かるようにした。

Easy (簡単)

初心者でもオンライン回答ができること、前年の回答を確認できることをアピール。

デフォルト

「紙で回答する方へ」の言い換えとして「オンライン回答が困難な方へ」と表現を変えることでオンライン回答が一般的と思ってもらえる表現とした。

1.4.3.2 オンライン回答ログイン情報

(1) 従来版オンライン回答のご案内

オンライン調査システム操作ガイド (農業構造動態調査)

回答は 月 日 日までをお願いします

インターネットで 回答ができます

パソコン、タブレットから簡単

いつでも

期間中、お好きな時間に回答できます。
入力中のデータは途中で保存ができ、後に作業を再開することも可能です。

どこでも

記入した調査票を返送する必要がありません。
パソコンの画面で調査回答が完了します。

安心

回答データは厳重に守られています。
回答の送信は暗号化されています。また、不正なアクセスなどの監視を24時間行っています。

オンライン(インターネット)回答のログイン情報

回答に必要なログイン情報は、同封の「ログイン情報について」に記載されています。

お問い合わせ先

- 農業構造動態調査に関すること
 - TEL:
 - ・農林水産省大臣官房統計部経営・構造統計課センサス統計室農林漁業構造統計班
TEL:03-3502-8093
- 政府統計共同利用システムに関すること(メールのみの対応)
 - ・政府統計共同利用システムヘルプデスク E-MAIL:support@e-stat.go.jp

農林水産省

操作ガイド 政府統計オンラインへのログイン

※パソコンのご利用環境によっては、利用できない場合があります。

- 1

Webサイトへアクセス

Webサイト「政府統計オンライン調査総合窓口」(<https://www.e-survey.go.jp/>)へアクセスしてください。

でWeb検索し、「政府統計オンライン調査総合窓口」を選択してください。
- 2

システムへログイン

次の手順でシステムへログイン、パスワードの変更をしてください。

[2-1] 政府統計オンライン調査総合窓口の「ログイン画面へ」のボタンを押します。



[2-2] 画面の利用者情報を入力を入力し「ログイン」ボタンを押します。



同封のログイン情報に記載のある
 『政府統計コード』
 『調査対象者ID』
 『初期パスワード』
 を入力し、「ログイン」ボタンを押してください。

[2-3] 新しいパスワードを設定します。
パスワードは調査対象者の確認のために重要です。大切に保管してください。



初期パスワードは紙ですので、初回で変更をお願いいたします。新しいパスワードを入力して「変更」ボタンを押してください。
- 3

データの入力

画面の案内に従って連絡先の登録、回答データを入力してください。

農林水産省で実施した統計調査結果については、農林水産省のWebサイトで公開しています。
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>

1.4 資料の作成

1.4.3 【農業構造動態調査】調査資料

(2) 従来版オンライン回答のログイン情報



ログイン情報について

(オンラインによる回答を希望される皆様へ)

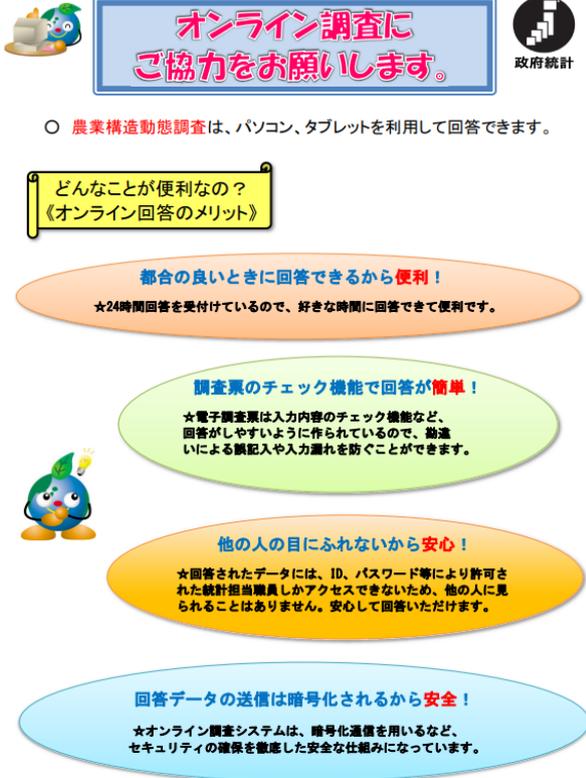
日頃より農林水産省が実施しております統計調査にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
 政府の統計調査では調査にご協力いただく皆様の負担軽減、個人情報保護に関する意識の高まり、調査の効率的な実施などに対応するため、様々な調査方法の改善を進めています。
 その一環として、紙の調査票だけでなく、電子調査票を用いてオンラインによって回答していただけるようシステムを整備しています。
 農業構造動態調査においてもオンラインでの回答が可能ですので、オンラインによる回答を希望される皆様は、下記「ログイン情報」を用いて「政府統計オンライン調査総合窓口」にアクセスし、電子調査票への回答データの入力及び送信をお願いします。
 なお、政府統計オンライン総合窓口へのアクセス方法等については、「オンライン調査システム操作ガイド」をご覧ください。

政府統計オンライン調査総合窓口のホームページアドレス
 [https://www.e-survey.go.jp]

【ログイン情報】

政府統計コード	APYR
調査対象者 ID	
調査対象者 ID ふりがな	
パスワード	
パスワード ふりがな	

(3) 従来版オンライン調査にご協力お願いしますチラシ



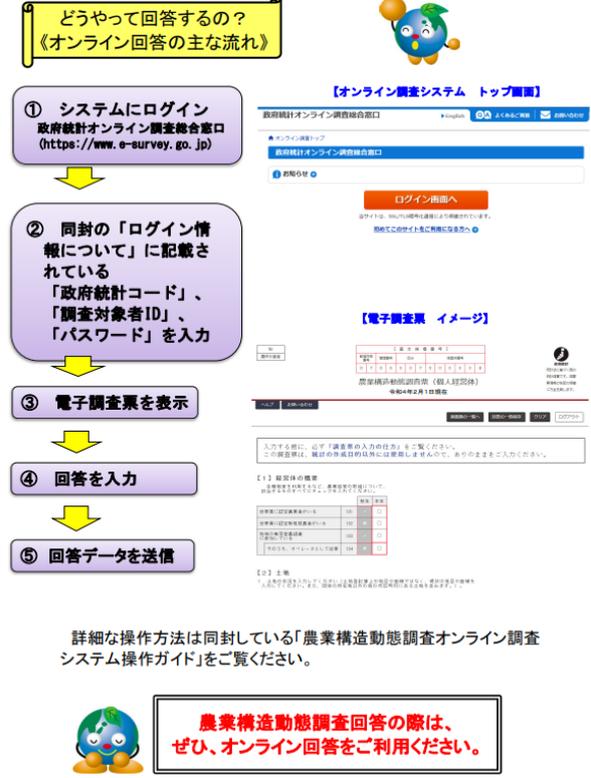
オンライン調査にご協力をお願いします。

○ 農業構造動態調査は、パソコン、タブレットを利用して回答できます。

どんなことが便利なの？
《オンライン回答のメリット》

- 都合の良いときに回答できるから便利！**
★24時間回答を受付けているので、好きな時間に回答できて便利です。
- 調査票のチェック機能で回答が簡単！**
★電子調査票は入力内容のチェック機能など、回答がしやすいように作られているので、勘違いによる誤記入や入力漏れを防ぐことができます。
- 他の人の目にふれないから安心！**
★回答されたデータには、ID、パスワード等により許可された統計担当職員しかアクセスできないため、他の人に見られることはありません。安心して回答いただけます。
- 回答データの送信は暗号化されるから安全！**
★オンライン調査システムは、暗号化通信を用いるなど、セキュリティの確保を徹底した安全な仕組みになっています。

農林水産省



どうやって回答するの？
《オンライン回答の主な流れ》

- ① システムにログイン
政府統計オンライン調査総合窓口
(https://www.e-survey.go.jp)
- ② 同封の「ログイン情報について」に記載されている「政府統計コード」、「調査対象者ID」、「パスワード」を入力
- ③ 電子調査票を表示
- ④ 回答を入力
- ⑤ 回答データを送信

詳細な操作方法は同封している「農業構造動態調査オンライン調査システム操作ガイド」をご覧ください。

農業構造動態調査回答の際は、ぜひ、オンライン回答をご利用ください。

(4) ナッジ版オンライン回答ログイン情報

コンセプトは、オンライン回答へチャレンジとしてパソコンやスマートフォン初心者でも回答できるように「オンライン回答をしてみよう」と思わせるデザインと実際にオンライン回答をした際に、回答完了までたどり着けるような内容とした。

4 調査票の回答

調査票を選択し、回答を入力

①下の画面が表示されたら、調査票の名前（下の画面の例では、「農業構造動態調査票（個人経営体）」）をクリックすると調査票画面が表示されますので、内容に沿って回答の入力を進めてください。
1画面の回答を終えたら「次のページへ進む」をクリックしてください。
※回答の入力にあたり、ご不明な点は「記入の仕方」をご覧ください。

②調査票を最後まで回答していただくと、最後の画面に「調査データ送信」のボタンがあります。これをクリックすると「3 連絡先の登録」で登録したメールアドレス宛に回答を受信した旨のメールが届きますので、これでオンライン回答は完了です。



⑤



お問合せ先

●政府統計共同利用システムに関すること（メールのみの対応）
・政府統計共同利用システムヘルプデスク E-MAIL: support@e-stat.go.jp

操作ガイド

オンライン回答、してみませんか？

紙の方が慣れてるし…

自分にもできるかなあ

ちょっと待つて!!

オンライン回答は実は簡単なんです!
タブレットからも回答できます!
チャレンジしてみてください!!

4ステップで

簡単・便利

—政府統計オンラインへのログイン—

1 接続する 政府統計オンライン調査総合窓口へアクセス

パソコン・タブレットで検索サイトから接続

政府統計オンライン Q 検索

URLを直接入力しても接続できます。
e-survey.go.jp

2 タブレットでQRコードから接続



※スマホからでも接続・回答はできますが、表示は小さくなります。

③



上の画面が表示されたら、「ログイン画面へ」をクリックして次に進みます。

農林水産省

① 【Attractive(魅力的・印象的)】

紙の方が慣れてる、簡単と思っている人に、「オンライン回答してみませんか」「オンラインは実は簡単、チャレンジしてみてください」と訴えかけるようなメッセージを記載。

② 【Easy (簡単)】

容易にアクセスできるようQRコードを記載。

③ 画面が遷移する度に画像を載せることで途中離脱を防止する。

④ 【Easy (簡単)】

ボタンは名前だけでは、分かりにくいので実際に画面に表示されているボタンと同じ画像を使用することでどこを押したらいいのか分からないという問題を未然に防ぐような記載をした。

⑤ クリックをする際は、画面のどこにあるボタンなのかで探し迷ってしまうことが多いと考えられることからクリック前後の画面を掲載。

2 調査結果の分析・考察

2.1 実査（発送パターンの設計）

調査客体への調査資材の印刷・配布及び回収については、地方農政局等担当職員及び県域拠点等担当職員が実施した。

2.1.1 果樹調査

発送パターンは、以下のようにA～Cの3グループに分け、都道府県ごとにパターンを変えて調査資材を発送した。

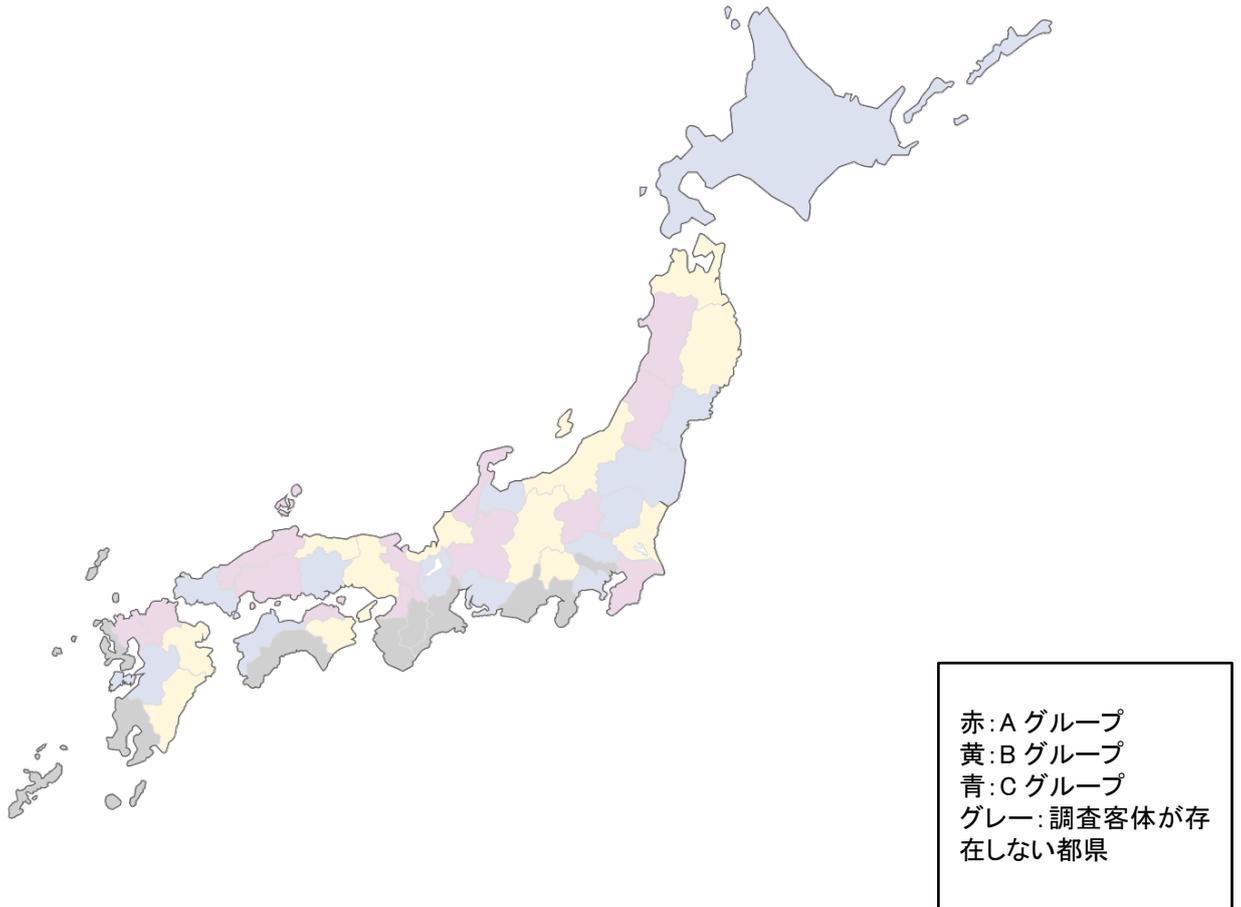
グループ	発送パターン	配布実団体数
Aグループ	パターン1(従来の依頼状+ナッジ版オンライン回答ガイド)	128
Bグループ	パターン2(ナッジ版依頼状①+ナッジ版オンライン回答ガイド)	128
Cグループ	パターン3(ナッジ版依頼状②+ナッジ版オンライン回答ガイド)	128
合計		384

2.1 実査（発送パターンの設計）

2.1.1 果樹調査

2.1.1.1 都道府県別の発送パターン

	本年度調査団体数			グループ	
	ぶどう	日本なし	実団体数		
合 計	265	188	384		
北 海 道	19		19	C	
東 北	宮 城		2	C	
	青 森	9		B	
	岩 手	7		B	
	秋 田	5	6	A	
	山 形	32	11	33	A
福 島	11	15	21	C	
関 東	埼 玉	3	12	14	C
	茨 城		7	7	B
	栃 木		11	11	C
	群 馬		2	2	A
	千 葉		12	12	A
	東 京				
	神 奈 川		3	3	C
	山 梨	1		1	B
長 野	47	19	49	B	
静 岡					
北 陸	石 川	4	3	5	A
	新 潟	14	10	17	B
	富 山		1	1	C
	福 井		2	2	B
東 海	愛 知	8	8	10	C
	岐 阜		4	4	A
	三 重				
近 畿	京 都		2	2	A
	滋 賀	7	4	8	C
	大 阪	3		3	A
	兵 庫	7	3	8	B
	奈 良				
和 歌 山					
中 国 四 国	岡 山	18		18	C
	鳥 取	3	8	8	B
	島 根	10		10	A
	広 島	13	3	13	A
	山 口		8	8	C
	徳 島		5	5	B
	香 川	14	1	15	A
愛 媛	5		5	C	
高 知					
九 州	熊 本		8	8	C
	福 岡	15	8	17	A
	佐 賀		3	3	A
	長 崎				
	大 分	6	7	11	B
	宮 崎	4		4	B
鹿 児 島					
沖 縄					
Aグループ道府県数				13	
Bグループ道府県数				12	
Cグループ道府県数				13	



2.1.2 農業構造動態調査

2.1.2.1 発送パターン

発送パターンは、以下のようにA～Dの4グループに分け、都道府県ごとにパターンを変えて調査資材を発送した。

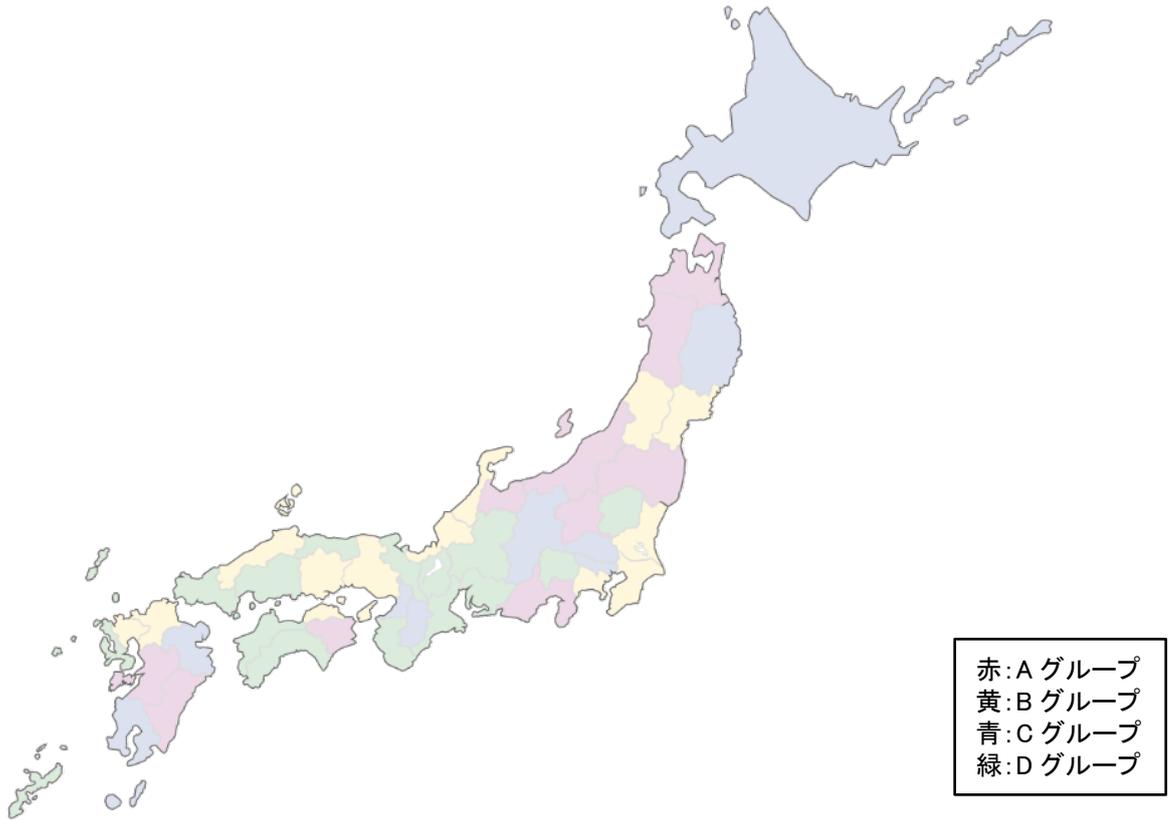
グループ	発送パターン	調査対象数	調査員	郵送
Aグループ	パターン1 (従来の依頼状+従来のオンライン回答案内+従来の操作ガイド)	7,097	5,410	1,687
Bグループ	パターン2 (ナッジ版依頼状①+ナッジ版オンライン回答ガイド)	6,874	5,202	1,672
Cグループ	パターン3 (ナッジ版依頼状②+ナッジ版オンライン回答ガイド)	6,873	5,160	1,713
Dグループ	パターン4 (ナッジ版依頼状③+ナッジ版オンライン回答ガイド)	6,696	5,010	1,686
合計		27,540	20,782	6,758

2.1.2.2 都道府県別の発送パターン

	本年度調査対象数			グループ	
		調査員	往復郵送		
合計	27,540	20,782	6,758		
北海道	1,697	1,086	611	C	
東北	宮城	652	652	B	
	青森	782	782	A	
	岩手	1,011	1,002	9	C
	秋田	550	529	21	A
	山形	630	630		B
	福島	923	898	25	A
関東	埼玉	688	688	C	
	茨城	1,090	870	220	B
	栃木	756	726	30	D
	群馬	621	501	120	A
	千葉	968	921	47	B
	東京	148	93	55	C
	神奈川	310	213	97	B
	山梨	306	294	12	D
	長野	1,002	944	58	C
静岡	883	793	90	A	
北陸	石川	146	146	B	
	新潟	742	691	51	A
	富山	156	141	15	A
	福井	145	145		B
東海	愛知	885	885	D	
	岐阜	397	397		D
	三重	340	277	63	D
近畿	京都	283	283	D	
	滋賀	216	216		D
	大阪	149	149		C
	兵庫	727	727		B
	奈良	210	210		C
	和歌山	421	421		D
中国四国	岡山	490	490	B	
	鳥取	279	279		D
	島根	275	275		B
	広島	373	373		D
	山口	278	278		D
	徳島	363	363		A
	香川	317	317		B
	愛媛	450	450		D
	高知	352	352		D
九州	熊本	1,065	1,065	A	
	福岡	720	700	20	B
	佐賀	404	404		B
	長崎	669	604	65	D
	大分	464	372	92	C
	宮崎	1,012	712	300	A
鹿児島	1,504	1,304	200	C	
沖縄	691	343	348	D	
	Aグループ道府県数	10			
	Bグループ道府県数	13			
	Cグループ道府県数	9			
	Dグループ道府県数	15			

2.1 実査（発送パターン設計）

2.1.2 農業構造動態調査



2.2 分析概要（果樹調査のみ）

2.2.1 分析対象データ

令和4年度に農林水産省が実施した果樹調査の回答結果を用いて、整理分析した。

NO	年度	使用データ
1	令和3・4年度	果樹調査(日本なし・ぶどう)対象客体及び回答状況情報
2	令和3年度	果樹調査前年値データ(日本なし、ぶどう)
3	令和3・4年度	果樹調査(日本なし・ぶどう)オンライン回答日時情報
4	令和3・4年度	果樹調査都道府県別調査資材発送日・回答期限日情報

2.2.2 分析手法

分析にあたっては、調査資材の「依頼状」を中心とした発送パターン3種について、集計比較とカイ二乗検定を用いた。また、過去の公的統計の実務経験を視点とした情報整理も行った。

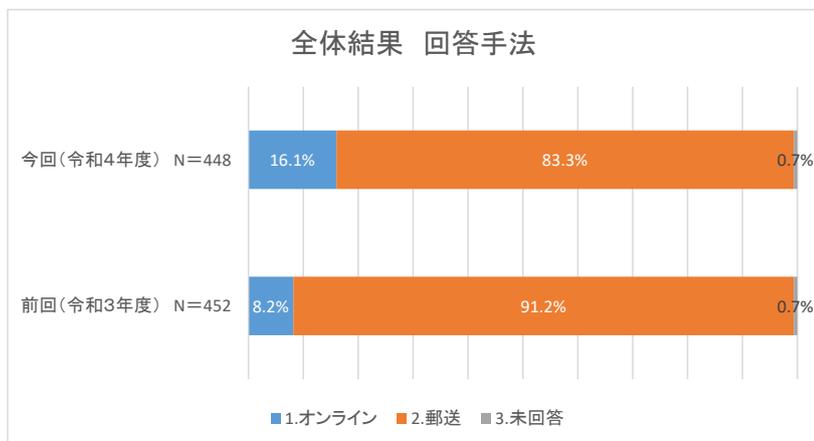
2.3 果樹調査 調査結果の分析・考察

2.3.1 集計比較

2.3.1.1 全体結果

■合計(日本なし、ぶどう)

実施年度	件数				回収率		
	調査対象数	1.オンライン	2.郵送	3.未回答	合計	1.オンライン	2.郵送
今回(令和4年度)	448	72	373	3	99.3%	16.1%	83.3%
前回(令和3年度)	452	37	412	3	99.3%	8.2%	91.2%
差	-4	35	-39	0	0.0%	7.9%	-7.9%



オンライン回答を選択した割合は、「今回(令和4年度)」16.1%、「前回(令和3年度)」8.2%となり、7.9ポイント増加した。

2.3.1.2 発送パターン別回収結果

■合計

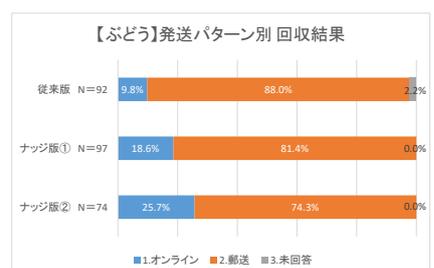
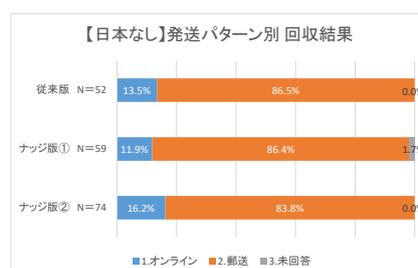
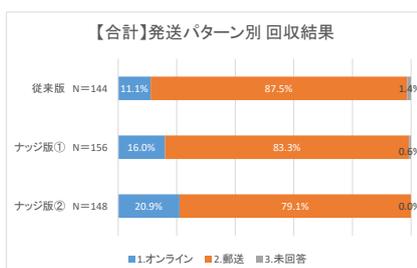
発送パターン	件数				回収率		
	調査対象数	1.オンライン	2.郵送	3.未回答	合計	1.オンライン	2.郵送
従来版	144	16	126	2	98.6%	11.1%	87.5%
ナッジ版①	156	25	130	1	99.4%	16.0%	83.3%
ナッジ版②	148	31	117	0	100.0%	20.9%	79.1%
合計	448	72	373	3	99.3%	16.1%	83.3%

■日本なし

発送パターン	件数				回収率		
	調査対象数	1.オンライン	2.郵送	3.未回答	合計	1.オンライン	2.郵送
従来版	52	7	45	0	100.0%	13.5%	86.5%
ナッジ版①	59	7	51	1	98.3%	11.9%	86.4%
ナッジ版②	74	12	62	0	100.0%	16.2%	83.8%
合計	185	26	158	1	99.5%	14.1%	85.4%

■ぶどう

発送パターン	件数				回収率		
	調査対象数	1.オンライン	2.郵送	3.未回答	合計	1.オンライン	2.郵送
従来版	92	9	81	2	97.8%	9.8%	88.0%
ナッジ版①	97	18	79	0	100.0%	18.6%	81.4%
ナッジ版②	74	19	55	0	100.0%	25.7%	74.3%
合計	263	46	215	2	99.2%	17.5%	81.7%

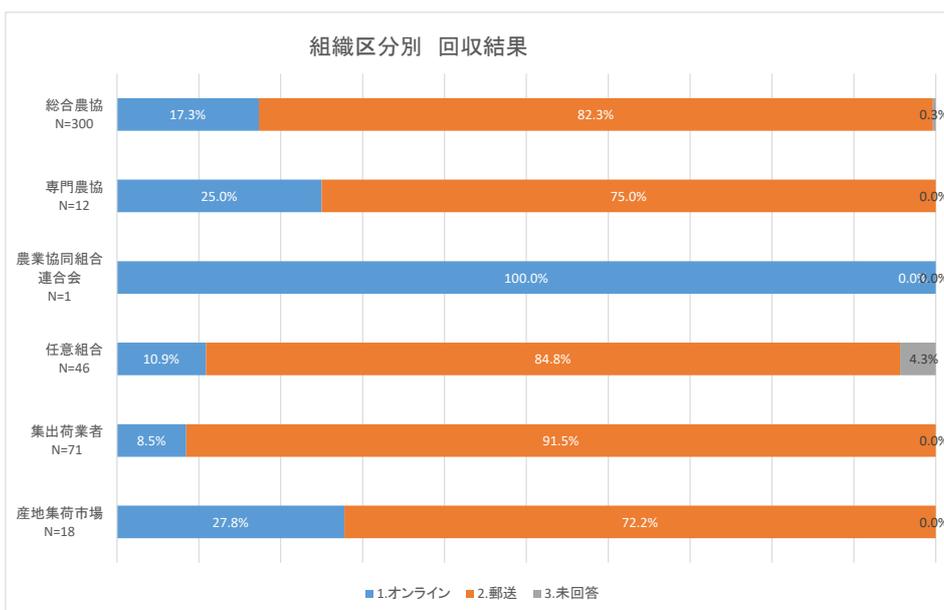


- 合計：オンライン回収率は、「ナッジ版②」20.9%と最も高く、次いで「ナッジ版①」16.0%「従来版」11.1%となった。
- 日本なし：オンライン回収率は、「ナッジ版②」16.2%と最も高く、次いで「従来版」13.5%、「ナッジ版①」11.9%となった。
- ぶどう：オンライン回収率は、「ナッジ版②」25.7%と最も高く、次いで「ナッジ版①」18.6%、「従来版」9.8%となった。

2.3.1.3 組織区分別の回収結果

■合計(日本なし+ぶどう)

組織区分	調査対象数	今回(令和4年度)						前回(令和3年度)						差			
		回収数			回収率			回収数			回収率			調査対象数			
		合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送		1 オンライン	2 郵送	
総合農協	300	299	52	247	99.7%	17.3%	82.3%	302	300	29	271	99.3%	9.6%	89.7%	-2	7.7%	-7.4%
専門農協	12	12	3	9	100.0%	25.0%	75.0%	12	12	0	12	100.0%	0.0%	100.0%	0	25.0%	-25.0%
農業協同組合連合会	1	1	1	0	100.0%	100.0%	0.0%	1	1	1	0	100.0%	100.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
任意組合	46	44	5	39	95.7%	10.9%	84.8%	46	45	4	41	97.8%	8.7%	89.1%	0	2.2%	-4.3%
集出荷業者	71	71	6	65	100.0%	8.5%	91.5%	72	72	0	72	100.0%	0.0%	100.0%	-1	8.5%	-8.5%
産地集荷市場	18	18	5	13	100.0%	27.8%	72.2%	19	19	3	16	100.0%	15.8%	84.2%	-1	12.0%	-12.0%
合計	448	445	72	373	99.3%	16.1%	83.3%	452	449	37	412	99.3%	8.2%	91.2%	-4	7.9%	-7.9%



組織区分別では、「総合農協」「集出荷業者」を除いた各区分は、調査対象数が少ないことから参考値であるものの、令和3年度のオンライン回収率と比較すると、全ての区分でオンライン回答率が増加した。

組織区分	発送パターン	調査対象数	回収件数			回収率		
			合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送
総合農協	従来版	95	94	10	84	98.9%	10.5%	88.4%
	ナッジ版①	102	102	19	83	100.0%	18.6%	81.4%
	ナッジ版②	103	103	23	80	100.0%	22.3%	77.7%
	合計	300	299	52	247	99.7%	17.3%	82.3%
専門農協	従来版	5	5	2	3	100.0%	40.0%	60.0%
	ナッジ版①	3	3	0	3	100.0%	0.0%	100.0%
	ナッジ版②	4	4	1	3	100.0%	25.0%	75.0%
	合計	12	12	3	9	100.0%	25.0%	75.0%
農業協同組合連合会	従来版	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	ナッジ版①	1	1	1	0	100.0%	100.0%	0.0%
	ナッジ版②	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	1	1	1	0	100.0%	100.0%	0.0%
任意組合	従来版	12	11	0	11	91.7%	0.0%	91.7%
	ナッジ版①	9	8	0	8	88.9%	0.0%	88.9%
	ナッジ版②	25	25	5	20	100.0%	20.0%	80.0%
	合計	46	44	5	39	95.7%	10.9%	84.8%
集出荷業者	従来版	19	19	0	19	100.0%	0.0%	100.0%
	ナッジ版①	38	38	4	34	100.0%	10.5%	89.5%
	ナッジ版②	14	14	2	12	100.0%	14.3%	85.7%
	合計	71	71	6	65	100.0%	8.5%	91.5%
産地集荷市場	従来版	13	13	4	9	100.0%	30.8%	69.2%
	ナッジ版①	3	3	1	2	100.0%	33.3%	66.7%
	ナッジ版②	2	2	0	2	100.0%	0.0%	100.0%
	合計	18	18	5	13	100.0%	27.8%	72.2%
総計		448	445	72	373	99.3%	16.1%	83.3%

組織区分別に発送パターンによる回収率に違いがあるかを比較した。比較対象は調査対象数の観点で「総合農協」「集出荷業者」について比較検討した。

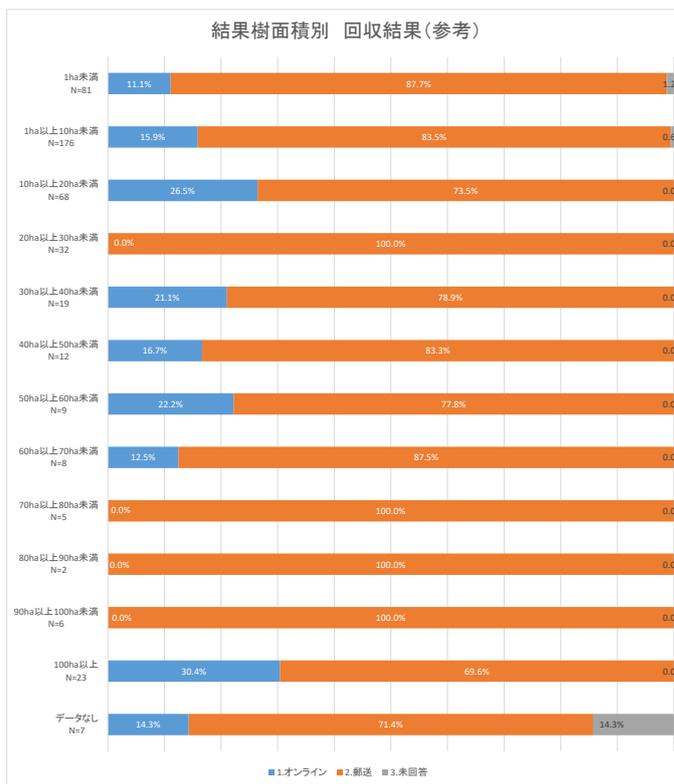
総合農協のオンライン回答率は、「ナッジ版②」22.3%と最も高く、次いで「ナッジ版①」18.6%、「従来版」10.5%であった。

集出荷業者のオンライン回答率は、「ナッジ版②」14.3%と最も高く、次いで「ナッジ版①」10.5%であった。「従来版」は0.0%と、当該属性においては「従来版」によるオンライン回答はなかった。

2.3.1.4 結果樹面積別の回答結果

■合計(日本なし+ぶどう)

令和3年度 結果樹面積	調査対象数	今回(令和4年度)						前回(令和3年度)						差				
		回収数			回収率			回収数			回収率			調査対象数	1 オンライン	2 郵送		
		合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送					
1ha未満	81	80	9	71	98.8%	11.1%	87.7%	86	86	6	80	100.0%	7.0%	93.0%	-5	4.1%	-5.4%	※1
1ha以上10ha未満	176	175	28	147	99.4%	15.9%	83.5%	179	179	14	165	100.0%	7.8%	92.2%	-3	8.1%	-8.7%	※2
10ha以上20ha未満	68	68	18	50	100.0%	26.5%	73.5%	68	68	8	60	100.0%	11.8%	88.2%	0	14.7%	-14.7%	
20ha以上30ha未満	32	32	0	32	100.0%	0.0%	100.0%	32	32	1	31	100.0%	3.1%	96.9%	0	-3.1%	3.1%	
30ha以上40ha未満	19	19	4	15	100.0%	21.1%	78.9%	19	19	1	18	100.0%	5.3%	94.7%	0	15.8%	-15.8%	
40ha以上50ha未満	12	12	2	10	100.0%	16.7%	83.3%	12	12	2	10	100.0%	16.7%	83.3%	0	0.0%	0.0%	
50ha以上60ha未満	9	9	2	7	100.0%	22.2%	77.8%	9	9	0	9	100.0%	0.0%	100.0%	0	22.2%	-22.2%	
60ha以上70ha未満	8	8	1	7	100.0%	12.5%	87.5%	8	8	1	7	100.0%	12.5%	87.5%	0	0.0%	0.0%	
70ha以上80ha未満	5	5	0	5	100.0%	0.0%	100.0%	5	5	0	5	100.0%	0.0%	100.0%	0	0.0%	0.0%	
80ha以上90ha未満	2	2	0	2	100.0%	0.0%	100.0%	2	2	0	2	100.0%	0.0%	100.0%	0	0.0%	0.0%	
90ha以上100ha未満	6	6	0	6	100.0%	0.0%	100.0%	6	6	0	6	100.0%	0.0%	100.0%	0	0.0%	0.0%	
100ha以上	23	23	7	16	100.0%	30.4%	69.6%	23	23	4	19	100.0%	17.4%	82.6%	0	13.0%	-13.0%	※3
データなし	7	6	1	5	85.7%	14.3%	71.4%	3	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	4	14.3%	71.4%	
合計	448	445	72	373	99.3%	16.1%	83.3%	452	449	37	412	99.3%	8.2%	91.2%	-4	7.9%	-7.9%	



結果樹面積別（結果樹面積データは令和3年度調査のものを使用）では、「1ha未満」「1ha以上10ha未満」「10ha以上20ha未満」を除いた各区分は、調査対象数が少ないことから参考値であるものの、令和3年度のオンライン回収率と比較すると、「20ha以上30ha未満」区分を除いた全ての区分でオンライン回答率が増加した。

(※データなし：前回(令和3年調査)時に未回答又は非対象)

前回結果樹面積	発送パターン	調査対象数	回収件数			回収率		
			合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送
1ha未満	従来版	19	18	2	16	94.7%	10.5%	84.2%
	ナッジ版①	34	34	3	31	100.0%	8.8%	91.2%
	ナッジ版②	28	28	4	24	100.0%	14.3%	85.7%
	合計	81	80	9	71	98.8%	11.1%	87.7%
1ha以上10ha未満	従来版	66	65	8	57	98.5%	12.1%	86.4%
	ナッジ版①	50	50	7	43	100.0%	14.0%	86.0%
	ナッジ版②	60	60	13	47	100.0%	21.7%	78.3%
	合計	176	175	28	147	99.4%	15.9%	83.5%
10ha以上20ha未満	従来版	23	23	1	22	100.0%	4.3%	95.7%
	ナッジ版①	23	23	8	15	100.0%	34.8%	65.2%
	ナッジ版②	22	22	9	13	100.0%	40.9%	59.1%
	合計	68	68	18	50	100.0%	26.5%	73.5%

※参考数値として3区分のみ掲載

【※1～3について】

結果樹面積別に発送パターンによる回収率に違いがあるか比較した。比較対象は調査対象数の観点で「1ha未満」「1ha以上10ha未満」「10ha以上20ha未満」について参考として比較検討した。

1ha未満のオンライン回答率は、「ナッジ版②」14.3%と最も高く、次いで「従来版」10.5%、「ナッジ版①」8.8%であった。

1ha以上10ha未満のオンライン回答率は、「ナッジ版②」21.7%と最も高く、次いで「ナッジ版①」14.0%、「従来版」12.1%であった。

10ha以上20ha未満のオンライン回答率は、「ナッジ版②」40.9%と最も高く、次いで「ナッジ版①」34.8%、「従来版」は4.3%であった。

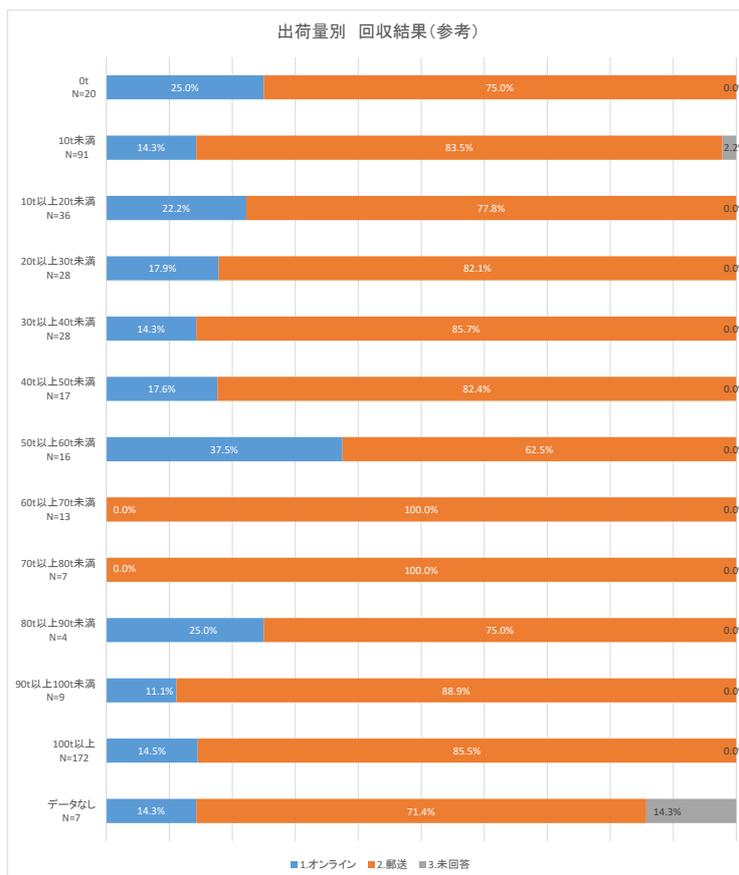
2.3.1.5 出荷量別の回答結果

■合計(日本なし+ぶどう)

令和3年度 出荷量	調査対象数	今回(令和4年度)						前回(令和3年度)						差			
		回収数		回収率		調査対象数	回収数		回収率		調査対象数	1 オンライン	2 郵送				
		合計	1 オンライン	2 郵送	合計		1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン				2 郵送			
0t	20	20	5	15	100.0%	25.0%	75.0%	23	23	1	22	100.0%	4.3%	95.7%	-3	20.7%	-20.7%
10t未満	91	89	13	76	97.8%	14.3%	83.5%	93	93	7	86	100.0%	7.5%	92.5%	-2	6.8%	-9.0%
10t以上20t未満	36	36	8	28	100.0%	22.2%	77.8%	38	38	3	35	100.0%	7.9%	92.1%	-2	14.3%	-14.3%
20t以上30t未満	28	28	5	23	100.0%	17.9%	82.1%	28	28	4	24	100.0%	14.3%	85.7%	0	3.6%	-3.6%
30t以上40t未満	28	28	4	24	100.0%	14.3%	85.7%	28	28	0	28	100.0%	0.0%	100.0%	0	14.3%	-14.3%
40t以上50t未満	17	17	3	14	100.0%	17.6%	82.4%	17	17	2	15	100.0%	11.8%	88.2%	0	5.9%	-5.9%
50t以上60t未満	16	16	6	10	100.0%	37.5%	62.5%	16	16	4	12	100.0%	25.0%	75.0%	0	12.5%	-12.5%
60t以上70t未満	13	13	0	13	100.0%	0.0%	100.0%	14	14	0	14	100.0%	0.0%	100.0%	-1	0.0%	0.0%
70t以上80t未満	7	7	0	7	100.0%	0.0%	100.0%	7	7	0	7	100.0%	0.0%	100.0%	0	0.0%	0.0%
80t以上90t未満	4	4	1	3	100.0%	25.0%	75.0%	4	4	1	3	100.0%	25.0%	75.0%	0	0.0%	0.0%
90t以上100t未満	9	9	1	8	100.0%	11.1%	88.9%	9	9	0	9	100.0%	0.0%	100.0%	0	11.1%	-11.1%
100t以上	172	172	25	147	100.0%	14.5%	85.5%	172	172	15	157	100.0%	8.7%	91.3%	0	5.8%	-5.8%
データなし	7	6	1	5	85.7%	14.3%	71.4%	3	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	4	14.3%	71.4%
合計	448	445	72	373	99.3%	16.1%	83.3%	452	449	37	412	99.3%	8.2%	91.2%	-4	7.9%	-7.9%

※1

※2



出荷量別(出荷量データは令和3年度調査のものを使用)では、「10t未満」「100t以上」を除いた各区分は、調査対象数が少ないことから参考値であるものの、令和3年度のオンライン回収率と比較すると、「60t以上70t未満」「70t以上80t未満」「80t以上90t未満」区分を除いた区分でオンライン回収率が増加した。(※データなし:前回(令和3年調査)時に未回答又は非対象)

令和3年度 出荷量	発送パターン	調査対象数	回収件数			回収率		
			合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送
10t未満	従来版	30	28	5	23	93.3%	16.7%	76.7%
	ナッジ版①	35	35	3	32	100.0%	8.6%	91.4%
	ナッジ版②	26	26	5	21	100.0%	19.2%	80.8%
	合計	91	89	13	76	97.8%	14.3%	83.5%
100t以上	従来版	50	50	3	47	100.0%	6.0%	94.0%
	ナッジ版①	64	64	11	53	100.0%	17.2%	82.8%
	ナッジ版②	58	58	11	47	100.0%	19.0%	81.0%
	合計	172	172	25	147	100.0%	14.5%	85.5%

※参考数値として2区分のみ掲載

【※1～2について】

前回（令和3年度）調査出荷量別に発送パターンによる回収率に違いがあるかを比較した。比較対象は調査対象数の観点で「10t 未満」「100t 以上」について参考として比較検討した。

10t 未満のオンライン回答率は、「ナッジ版②」19.2%と最も高く、次いで「従来版」16.7%、「ナッジ版①」8.6%であった。

100t 以上のオンライン回答率は、「ナッジ版②」19.0%と最も高く、次いで「ナッジ版①」17.2%、「従来版」6.0%であった。

2.3.1.6 前回（令和3年度）回答手法別の回収結果

■合計（日本なし+ぶどう）

	調査対象者数	今回（令和4年度）							
		回収数				内訳構成比			
		合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答	合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答
前回 （令和3年度）									
1.オンライン	37	36	27	9	1	100.0%	73.0%	24.3%	2.7%
2.郵送	404	403	44	359	1	100.0%	10.9%	88.9%	0.2%
3.未回答	3	2	0	2	1	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%
4.前回非対象	4	4	1	3	0	100.0%	25.0%	75.0%	0.0%
調査対象者数	448	445	72	373	3	100.0%	16.1%	83.3%	0.7%

■日本なし

	調査対象者数	今回（令和4年度）							
		回収数				内訳構成比			
		合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答	合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答
前回 （令和3年度）									
1.オンライン	15	15	11	4	0	100.0%	73.3%	26.7%	0.0%
2.郵送	168	168	15	153	0	100.0%	8.9%	91.1%	0.0%
3.未回答	1	0	0	0	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
4.前回非対象	1	1	0	1	0	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
調査対象者数	185	184	26	158	1	100.0%	14.1%	85.4%	0.5%

■ぶどう

	調査対象者数	今回（令和4年度）							
		回収数				内訳構成比			
		合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答	合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答
前回 （令和3年度）									
1.オンライン	22	21	16	5	1	100.0%	72.7%	22.7%	4.5%
2.郵送	236	235	29	206	1	100.0%	12.3%	87.3%	0.4%
3.未回答	2	2	0	2	0	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
4.前回非対象	3	3	1	2	0	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%
調査対象者数	263	261	46	215	2	100.0%	17.5%	81.7%	0.8%

前回（令和3年度）調査時の回答手法別に集計比較した（前回対象かつ今回非対象は調査対象数から除く）。前回（令和3年度）では郵送で回答した調査対象404件の内、今回（令和4年度）調査でオンライン回答した対象は「全体」10.9%であった。品目別には、「日本なし」8.9%、「ぶどう」12.3%であった。

■合計(日本なし+ぶどう)

			今回(令和4年度)								
			調査対象者数	回収数				内訳構成比			
				合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答	合計	1 オンライン	2 郵送	3 未回答
前回 (令和3 年度)	1.オンライン	従来版	13	12	8	4	1	100.0%	61.5%	30.8%	7.7%
		ナッジ版①	14	14	12	2	0	100.0%	85.7%	14.3%	0.0%
		ナッジ版②	10	10	7	3	0	100.0%	70.0%	30.0%	0.0%
		合計	37	36	27	9	1	100.0%	73.0%	24.3%	2.7%
	2.郵送	従来版	127	126	7	119	1	100.0%	5.5%	93.7%	0.8%
		ナッジ版①	140	140	13	127	0	100.0%	9.3%	90.7%	0.0%
		ナッジ版②	137	137	24	113	0	100.0%	17.5%	82.5%	0.0%
		合計	404	403	44	359	1	100.0%	10.9%	88.9%	0.2%

※参考数値として2区分のみ掲載

前回(令和3年度)調査の回答手法別に発送パターンによる回収率に違いがあるか比較した。比較対象は「前回オンライン」「前回郵送」について参考として比較検討した。

前回オンラインのオンライン回答率は、「ナッジ版①」85.7%と最も高く、次いで「ナッジ版②」70.0%、「従来版」61.5%であった。

前回郵送のオンライン回答率は、「ナッジ版②」17.5%と最も高く、次いで「ナッジ版①」9.3%、「従来版」5.5%であった。

2.3.1.7 地域ブロック（地方農政局区分）別回収結果

地方農政局 区分	調査対象数	今回(令和4年度)						前回(令和3年度)						差			
		回収数			回収率			回収数			回収率			調査対象数	1 オンライン	2 郵送	
		合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送	合計	1 オンライン	2 郵送				
北海道農政事務所	19	19	5	14	100.0%	26.3%	73.7%	19	18	0	18	94.7%	0.0%	94.7%	0	26.3%	-21.1%
東北農政局	101	101	15	86	100.0%	14.9%	85.1%	98	98	14	84	100.0%	14.3%	85.7%	3	0.6%	-0.6%
関東農政局	114	114	23	91	100.0%	20.2%	79.8%	118	118	16	102	100.0%	13.6%	86.4%	-4	6.6%	-6.6%
北陸農政局	34	34	7	27	100.0%	20.6%	79.4%	34	34	0	34	100.0%	0.0%	100.0%	0	20.6%	-20.6%
東海農政局	19	19	5	14	100.0%	26.3%	73.7%	20	20	0	20	100.0%	0.0%	100.0%	-1	26.3%	-26.3%
近畿農政局	25	25	5	20	100.0%	20.0%	80.0%	26	25	0	25	96.2%	0.0%	96.2%	-1	20.0%	-16.2%
中国四国農政局	87	84	10	74	96.6%	11.5%	85.1%	88	87	7	80	98.9%	8.0%	90.9%	-1	3.5%	-5.9%
九州農政局	49	49	2	47	100.0%	4.1%	95.9%	49	49	0	49	100.0%	0.0%	100.0%	0	4.1%	-4.1%
沖縄総合事務局	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
合計	448	445	72	373	99.3%	16.1%	83.3%	452	449	37	412	99.3%	8.2%	91.2%	-4	7.9%	-7.9%

地域ブロック（地方農政局区分）別に集計比較した。

前回（令和3年度）調査と比べて、全ての区分でオンライン回答割合が高かった。

（※調査対象数の観点から参考数値）

2.3.2 検定

発送グループ間の効果検証として、平均の差の検証を有意水準5%でカイ二乗検定を行った。

仮説検定には、ケースに応じて様々なパターンがあるが、本業務においては調査資材の発送パターン別にオンライン回答率に差があるのか(=カテゴライズされたデータの割合に差があるのか)を比較することから、カイ二乗検定が最適と判断した。

具体的な作業は、帰無仮説「発送グループとオンライン回答手法の比率には関連がない」という仮説に対して棄却されるか否かを計算した(2群ずつの比較)。

2.3.2.1 全体結果

■全体(日本なし+ぶどう)

<回収結果>

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	16	126	142
ナッジ版①	25	130	155
合計	41	256	297

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	16	126	142
ナッジ版②	31	117	148
合計	47	243	290

	1.オンライン	2.郵送	合計
ナッジ版①	25	130	155
ナッジ版②	31	117	148
合計	56	247	303

<理論値>

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	19.60	122.40	142
ナッジ版①	21.40	133.60	155
合計	41	256	297

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	23.01	118.99	142
ナッジ版②	23.99	124.01	148
合計	47	243	290

	1.オンライン	2.郵送	合計
ナッジ版①	28.65	126.35	155
ナッジ版②	27.35	120.65	148
合計	56	247	303

● 「従来版」 × 「ナッジ版①」

$P=0.22$ で $P<0.05$ ではないので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差は見られなかった。

● 「従来版」 × 「ナッジ版②」

$P=0.02$ で $P<0.05$ なので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差が見られた。

● 「ナッジ版①」 × 「ナッジ版②」

$P=0.28$ で $P<0.05$ ではないので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差は見られなかった。

上記の結果から、今回の調査では従来版とナッジ版②でのカイ二乗検定について、有意水準5%で調査資材の違いとオンライン回答は独立ではない(関係がある)と言える。

2.3.2.2 日本なしの結果

■日本なし
<回収結果>

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	7	45	52
ナッジ版①	7	51	58
合計	14	96	110

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	7	45	52
ナッジ版②	12	62	74
合計	19	107	126

	1.オンライン	2.郵送	合計
ナッジ版①	7	51	58
ナッジ版②	12	62	74
合計	19	113	132

<理論値>

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	6.62	45.38	52
ナッジ版①	7.38	50.62	58
合計	14	96	110

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	7.84	44.16	52
ナッジ版②	11.16	62.84	74
合計	19	107	126

	1.オンライン	2.郵送	合計
ナッジ版①	8.35	49.65	58
ナッジ版②	10.65	63.35	74
合計	19	113	132

日本なしに限定した検定結果は次のとおり。

● 「従来版」 × 「ナッジ版①」

$P=0.82$ で $P<0.05$ ではないので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差は見られなかった。

● 「従来版」 × 「ナッジ版②」

$P=0.67$ で $P<0.05$ ではないので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差は見られなかった。

● 「ナッジ版①」 × 「ナッジ版②」

$P=0.50$ で $P<0.05$ ではないので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差は見られなかった。

2.3.2.3 ぶどうの結果

■ぶどう

<回収結果>

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	9	81	90
ナッジ版①	18	79	97
合計	27	160	187

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	9	81	90
ナッジ版②	19	55	74
合計	28	136	164

	1.オンライン	2.郵送	合計
ナッジ版①	18	79	97
ナッジ版②	19	55	74
合計	37	134	171

<理論値>

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	12.99	77.01	90
ナッジ版①	14.01	82.99	97
合計	27	160	187

	1.オンライン	2.郵送	合計
従来版	15.37	74.63	90
ナッジ版②	12.63	61.37	74
合計	28	136	164

	1.オンライン	2.郵送	合計
ナッジ版①	20.99	76.01	97
ナッジ版②	16.01	57.99	74
合計	37	134	171

ぶどうに限定した検定結果は次のとおり。

● 「従来版」 × 「ナッジ版①」

$P=0.096$ で $P<0.05$ ではないので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差は見られなかった。

● 「従来版」 × 「ナッジ版②」

$P=0.007$ で $P<0.05$ なので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差が見られた。

● 「ナッジ版①」 × 「ナッジ版②」

$P=0.26$ で $P<0.05$ ではないので、今回の調査では、2つの資材の間に有意な差は見られなかった。

2.3.3 考察

検定結果を踏まえて、考察した。まず、調査資料の「依頼状」の違いについては次のとおり。

従来版	ナッジ版①	ナッジ版②
従来の依頼状	オンライン回答を推奨したデザイン	オンライン回答に変更・切り替えのお願いとしたデザイン

依頼状 記載項目	従来版	ナッジ版①	ナッジ版②
1 調査目的	○	○	○
2 調査をお願いした経緯	○	○	○
3 守秘義務	○	○	○
4 回答手順(紙)	○	△	△
5 回答期限	○	○	○
6 回答手順(オンライン)	×	○	○
7 オンライン回答推奨文	×	○	○
8 オンライン回答時の前回値確認可	×	○	○
9【重要】	×	×	○
10 オンライン回答お願いします テキスト	×	×	○
11 オンライン回答への変更依頼	×	×	○
12 オンラインによる回答負担軽減文	×	×	○

1つ目のポイントは、「従来版」×「ナッジ版②」の違いについて、「従来版」に掲載されている内容は、「ナッジ版②」にも記載している。一方で、上表のNo. 9-12は、「ナッジ版②」には記載しているが、「従来版」にはない。

2つ目のポイントは、「従来版」×「ナッジ版①」で有意差が見られなかったという結果について、同様に違いを見比べたところ、「従来版」に掲載されている内容は、「ナッジ版①」にも記載している。一方で、上表No. 6-8は、「ナッジ版①」には記載しているが、「従来版」にはない。

また、考察する上で、事前のヒアリング結果を振り返ると、調査客体は、〈慣れ〉から次の内容を確認する目的で資料の一部のみ目を通すとの意見があった。

- ・ 果樹調査と認識するため
- ・ 締め切りを確認するため
- ・ 対象品目はなにか確認するため

さらに、事前ヒアリング結果より、紙・オンラインを選択する意思決定のタイミングは、調査資材が届いて統計調査と認識した時点ではあるものの、回答手法を調査毎に「選択する」という発想はないとの意見もあることから、変化をきらう・変化がおきても自分ごとには受け止めないという心理（現状バイアス）が働くと考えられる。

これに対し、「ナッジ版②」では、曖昧な情報提供ではなく、端的に、強く明確に示すという視点で用語をセレクトした（「重要」「回答方法変更のお願い」）。この部分が、差として出てきたのではないかと考えられる。

2.3.4 その他

本事業では、ヒアリング結果から調査資材「依頼状」をメインに取り扱っているが、「オンライン回答ガイド」も今回（令和4年度）調査では変更していることから、効果検証を目的に、前回（令和3年度）の回収結果と比較した。

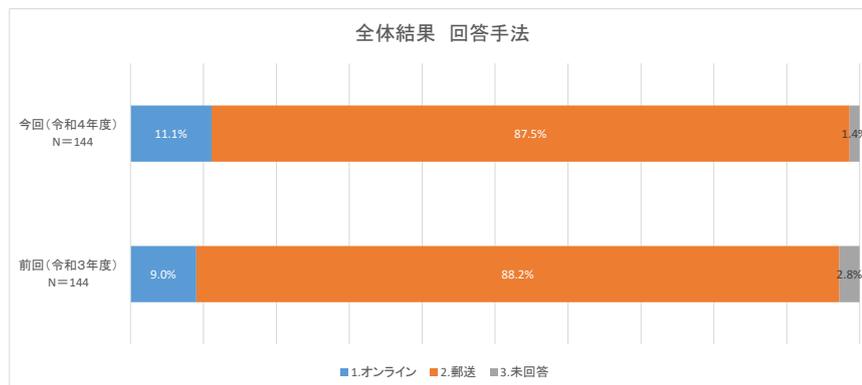
なお、比較にあたり、今回（令和4年度）調査分における発送パターンのうち「従来版」グループに絞って前年比較をした。さらに、当該資材作成の視点として、【オンライン回答時の途中離脱に対するフォロー】と位置づけており、ログイン後の途中離脱の状況も整理した。

これらを含め、過去の公的統計の実務経験を視点とした情報整理も行った。

2.3.4.1（参考）オンライン回答手引の効果検証 全体結果

■合計（日本なし、ぶどう）/従来版グループのみ

実施年度	調査対象数	件数				回収率		
		1.オンライン	2.郵送	3.未回答	4.前回非対象	合計	1.オンライン	2.郵送
今回（令和4年度）	144	16	126	2	0	98.6%	11.1%	87.5%
前回（令和3年度）	144	13	127	0	4	97.2%	9.0%	88.2%
差	0	3	-1	2	-4	1.4%	2.1%	-0.7%



オンライン回答を選択した割合は、「今回（令和4年度）」11.1%、「前回（令和3年度）」9.0%となり、2.1ポイント増加した。

2.3.4.1 (参考) オンライン回答手引の効果検証 ログイン後の途中離脱件数

■合計(日本なし、ぶどう)/従来版グループのみ

実施年度	件数				途中離脱割合
	調査対象数	オンラインログイン数	オンライン回答完了数	オンライン途中離脱	
今回(令和4年度)	448	89	72	17	19.1%
前回(令和3年度)	452	47	37	10	21.3%
差	-4	42	35	7	-2.2%

途中離脱の割合は、「今回(令和4年度)」19.1%、「前回(令和3年度)」21.3%と2.2ポイント低かった。

2.4 農業構造動態調査 分析申し送り事項

前回調査との全体的な比較のほか、同一属性内で、発送パターンが異なることによってオンライン回答率に違いがあるのかを視点とし分析項目を整理した。

2.4.1.1 分析対象データ案

- ・調査対象者名簿
- ・回答データ（各設問の回答値）
- ・オンライン回答日時情報（ログイン日時・回答完了日時等）

2.4.1.2 分析項目案

NO	分析項目			視点
1	調査項目	【2】1	経営耕地面積規模別比較	事業規模により回答方法が分かれるという仮説。 ＜調査項目【2】1：土地の状況＞の回答欄コード201-203「経営している」の実数値をクラス分けして集計。
2	調査項目	【3】1	世帯員の人数別比較	家族同居と単身で回答方法が分かれるという仮説。 ＜調査項目【3】1：世帯員の数＞の回答欄コード301「世帯員の数」の実数値を「1」又は「2以上」にクラス分けして集計。
3	調査項目	【3】2	経営主の年代別比較	年代によって回答方法が分かれるという仮説。 ＜調査項目【3】2：満15歳以上の世帯員＞の「経営主」について「③出生の年月」により年齢を算出し、クラス分けして集計。
4	調査項目	【3】3	世帯としての所得別比較	自営農業以外の所得が多い場合に回答方法が分かれるという仮説。 ＜調査項目【3】3：世帯としての所得＞の回答欄コード311を集計。
5	調査項目	【5】1	青色申告有無別の比較	申告している場合は、申告のための申告ソフトやe-Taxの利用の可能性から回答方法が分かれるという仮説。 ＜調査項目【5】1：青色申告＞の回答欄コード501を集計。選択肢別に4カテゴリでの集計のほか、集計対象数の観点から、「行っていない」・「行っている」の2カテゴリでの集計実施も望ましい。

NO	分析項目			視点
6	調査項目	【5】2	データ活用状況別の比較	<p>データ活用の有無によって回答方法が分かれるという仮説。</p> <p><調査項目【5】2：データ活用>の回答欄コード511を集計。選択肢別に4カテゴリでの集計のほか、集計対象数の観点から、「活用している（「データを取得して活用」＋「データを取得・記録して活用」＋「データを取得・分析して活用）」・「データを活用した農業を行っていない」の2カテゴリでの集計実施も望ましい。</p>
7	調査項目	【6】	農業生産関連事業の実施有無別比較	<p>農業生産関連事業の実施有無によって回答方法が分かれるという仮説。</p> <p><調査項目【6】：農業生産関連事業>の回答欄コード601-610を集計（複数回答の調査項目であるため「行っていない」・「行っている」の2カテゴリでの集計）。</p>
8	調査項目	【7】1	販売金額規模別比較	<p>事業規模により回答方法が分かれるという仮説。</p> <p><調査項目【7】1：農産物の販売>の回答欄コード701を集計。</p>
9	調査項目	【7】2	部門コード別比較	<p>主業・副業別、生産内容別の階層区分によって回答方法が分かれるという仮説。</p> <p><調査項目【7】2：農産物の販売金額上位3位>の回答欄コード711・713・715より階層区分を整理・集計。</p>
10	前回回答手法別比較			前回調査時の回答手法別に比較（参考数値）。
11	都道府県別（地域ブロック別）比較			都道府県別（地域ブロック別）に分析。地域差の有無を確認。
12	検定（カイ二乗検定）			割合の差について有意差が見られるか確認。
13	オンライン回答状況			ログイン途中脱落状況等を確認。

2.4.1.3 分析にあたって

分析対象データの取り扱いについて、注意が必要であると考えます。

農業構造動態調査の実査は「調査員調査」「郵送調査」のいずれかで実施していることから、分析結果は調査手法別に見ることが最適である（「2.1.2.1 発送パターン」参照）。

特に、調査資材の発送パターン別にオンライン回答率に差があるのかを効果検証する分析においては「郵送調査」対象に条件を絞ることが望ましいと考える。

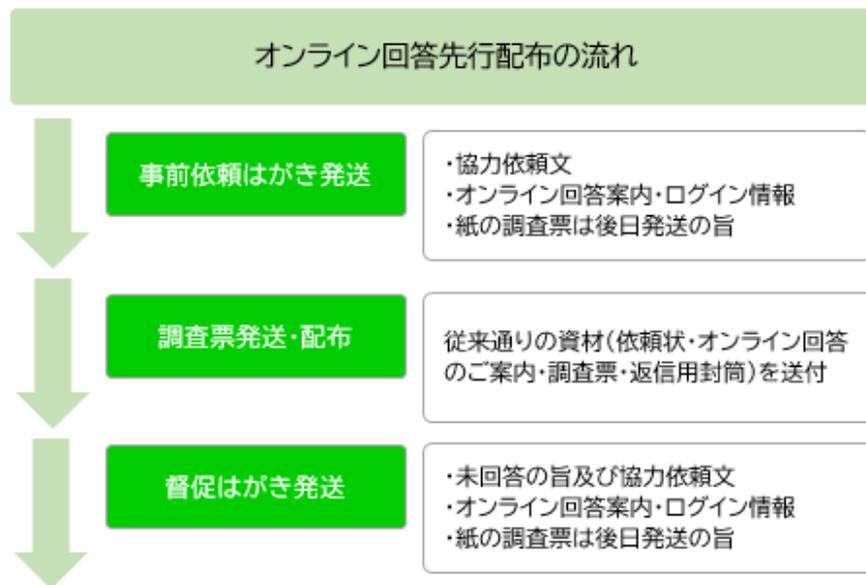
この理由として、「調査員調査」では、調査そのものの協力を得る必要があるという背景から、調査相手（高齢かどうか、という視点）を見て、統計調査員が現場で柔軟に判断した上でオンライン回答に関する説明等を行っていることがヒアリング結果からうかがえる。本年度調査ではオンライン回答関連資料も一律に配布し、説明を行うこととしているが、調査員ごとに説明の粒度に差異が生じている可能性があることから、郵送調査分のみで結果を見る方が良いと考える。

3 オンライン回答推進のための考察

3.1 運営方法の検討

3.1.1 オンライン回答の先行配布

郵送や調査員配布前に「協力依頼はがき兼オンライン回答のご案内」の事前はがきの送付を検討する。調査対象は、従来の紙で回答することに慣れておりオンラインで回答するという選択肢がイメージできない可能性もある。そのため、調査票を手にする前に事前はがきとしてオンライン回答のご案内（調査対象ID、パスワード含む）を載せオンライン回答ができるということを認識させる。また、事前はがきには、今回は事前にオンライン回答用の情報をお送りしているが、後日追って郵送にて調査票を送る旨を記載し調査対象者の選択肢を設けたままとする。



3.1.2 前回値の確認方法の検討

前回値の提供方法を、オンライン回答のみとすることも方法論として検討する。

調査対象の特性から、前回値を見て回答したいという心理が働くことが想定され、オンラインで回答を試みる調査対象が増える可能性が高い。実際に、今回の農業構造動態調査の対象者からは、調査票を見て前回値がかかっているの、そのまま参考に記入したら早いと思って紙で回答したという意見があった。紙に前回値がかかれていなければ、紙が早いというメリットはなくなりオンライン回答へ移行する可能性が高い。

また、前回値は調査対象にとって大切な情報なので紙に予め印字し、だれでも見ることができない状態よりは、ログイン情報を所有しログインできる人のみに限定公開されている方が、安全性が高いと考えられる。そのため、前回値は紙の調査票には直接印字せず「オンライン回答ガイド」に記載のログイン情報をもって、回答できる状態とする。

3.2 記載する文言の工夫

3.2.1 回答可能より“お願い”表記

オンライン回答を推奨する際は、「オンラインによる回答が可能です。」という表現よりも「オンラインによるご回答をお願いします。」といった表現の方が調査対象にとって伝わりやすくオンライン回答をする、きっかけを作ることができる。調査対象には忙しい中で回答してもらっているという背景もあり、さらにオンライン回答も依頼すると調査に対する負担感を感じてしまうのではという懸念もあるが、なぜオンライン回答をしてほしいのかといった説明を行いオンライン回答の重要性を理解してもらうことで、紙かオンラインどちらでも回答可能な方にとっては、オンラインに移行するきっかけを作ることができる。今回の検証業務の果樹調査でも「変更・切り替えをお願いします。」といった文言を入れている方がオンラインの回答率が高かったため、効果的だったと考えられる。

作物統計調査へのご協力をお願い

1 調査の依頼について
 日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。
 農林水産省では、国内の主要な農作物の作付（栽培）面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、農林水産行政の基礎資料を整備することを目的に「作物統計調査」を実施しており、調査結果は、国民生活の基礎である食料の安定供給の確保のための施策推進等に利用しております。
 本調査は、同封した調査票に記述してある農作物（品目）について、これまでに栽培及び取り扱い実績のある団体等を対象に実施しました。
 ご回答いただいた内容は、統計法の規定しておりますので、貴団体内の農作物の生

オンライン回答を推奨するような文言の記載

お忙しいことと思いますが、回答期限までにご提出をお願いいたします。

2 【重要】回答方法変更のお願い
 農林水産省では、統計調査へのご回答に際して、「公的統計の整備に関する基本的な計画」に基づき、オンラインによるご回答を推奨しています。統計調査をオンラインにて回答いただくことでシステムチェック機能により、記入漏れや数値の整合性が送信前に予め確認・修正ができ、回答精度の向上にも繋がります。
 調査対象者皆様の統計調査への回答負担を軽減し回答精度を向上させ、よりよい調査へと導くため、ぜひオンライン回答にご協力をお願いいたします。

3.2.2 対象者側のメリットの記載

調査対象者へ依頼をする際は、対象者側のメリットや調査に協力する目的を明確にすることで納得し回答を得られる。類似調査でも、回収について問合せで何に使われている調査なのかを説明する際にただ施策のためと言ってもイメージすることが難しい。そのため、補助金を考える上での資料になっている、小規模の事業所を支援するような法律を作るための資料になっているなど噛み砕いたイメージしやすい表現であれば納得して協力へ繋がることが多い。オンライン回答でも、オンラインシステムにてチェックが入るので、記入内容に関する確認の電話がいく可能性が低くなることや、控えを作成する際に回答内容を保存やスクリーンショットすることで紙に書き写すという手間が省けるという分かりやすい言葉を使うことでオンライン回答率の向上に繋がると考えられる。

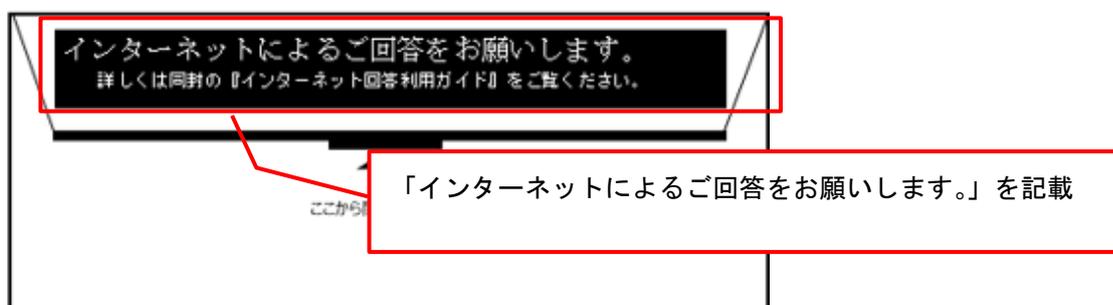
3.3 資材の検討

本検証業務では、依頼状とオンライン回答ガイド、督促はがきが資材作成の対象だったが、他にも調査票発送用封筒や調査票などの調査資材についても、オンライン回答を推進させる工夫をすることでオンライン回答率向上へ繋がる可能性がある。

3.3.1 調査票発送用封筒への工夫

果樹調査のヒアリングではあまり見ないと意見があったので、あまり効果がない可能性が高い。一方、農業構造動態調査でも資材全ては見ないと意見があったものの、現行は調査員調査により説明を受けながら手渡しで受け取っているため封筒の細部までは見ないが郵送配布となると封を開ける際に必ず目に入るので、封筒の折面に「インターネットによりご回答をお願いします。」などオンライン回答を促進するメッセージを入れることでオンライン回答の意識付けになる。

対象は異なるが、別調査を行った際に封筒の折面のメッセージのあることで3～5%オンライン回答率が上がったという経験からも目に入る場所にオンライン回答推奨の文言をちりばめておくことが重要と言える。



3.3.2 調査票への工夫

果樹調査、農業構造動態調査どちらの調査対象についても、ヒアリングの際に調査のボリュームを確認するため封を開けたら最初に調査票を確認するという意見があった。このような調査対象は、開封時に依頼状やオンライン回答ガイドを見ずに調査票を確認し、回答する際は調査票を取り出して回答する。つまり、調査票しかみていないということになるため、調査票にもオンライン回答を推奨するような文言やQRコードを入れることで確実に対象者の目に入りオンライン回答に繋がる可能性が高まると考えられる。

